

令和4年度  
長岡市障害者生活実態調査報告書  
(概要)

集計・分析  
長岡大学 米山 宗久

## 1. 調査目的

- 障害者の生活実態等の把握
- 第7期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、第3期障害児福祉計画の基礎資料  
(令和6年度～令和8年度)

## 2. 調査設計と回収結果

調査区分	(1)在宅者調査			(2)施設入所者調査	(3)高齢者調査
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を所持している18歳以上65歳未満の方			新潟県内の障害児・者入所施設に入所している18歳以上の方	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を所持している65歳以上の方
調査票名称(略称)	調査票A (A票)	調査票B (B票)	調査票C (C票)	調査票D (D票)	調査票E (E票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳		身体障害者手帳 療育手帳 精神障害者保健福祉手帳
調査方法	配票は郵送法・回収は郵送法とインターネット上の回答				
対象者数(送付数)	760	600	740	140	510
有効回収数	455	377	411	98	305
有効回答率	59.9%	62.8%	55.5%	70.0%	59.8%
調査基準日	令和4年8月1日				
調査期間	令和4年11月3日～11月25日				

調査区分	(4)障害児調査				
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)や児童通所受給者証を所持している18歳未満の方				
	就学前児童	小学校段階	中学校段階	高等学校段階	義務教育修了後・高等学校等に未就学
調査票名称(略称)	調査票F-1 (F-1票)	調査票F-2 (F-2票)	調査票F-3 (F-3票)	調査票F-4 (F-4票)	調査票F-5 (F-5票)
所持している障害者手帳による区分	障害者手帳、児童通所受給者証の保持者				
調査方法	配票は郵送法・回収は郵送法とインターネット上の回答				
対象者数(送付数)	250				
有効回収数	18	52	44	45	3
有効回答率	64.8%				
調査基準日	令和4年8月1日				
調査期間	令和4年11月3日～11月25日				

### 3. 回収方法

回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択方法として実施した。

- ① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて郵送する郵送調査
- ② 2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答するWEB調査

回答方法の状況は、調査票（紙）が1,579人（87.3%）、  
WEB調査が229人（12.7%）であった。



障害者生活実態調査回答分類別一覧表

	調査票（紙）		WEB調査		合計	
	数	%	数	%	数	%
A表	394	86.6%	61	13.4%	455	100.0%
B表	357	94.7%	20	5.3%	377	100.0%
C表	326	79.3%	85	20.7%	411	100.0%
D表	91	92.9%	7	7.1%	98	100.0%
E表	298	97.7%	7	2.3%	305	100.0%
F-1表	12	66.7%	6	33.3%	18	100.0%
F-2表	29	55.8%	23	44.2%	52	100.0%
F-3表	33	75.0%	11	25.0%	44	100.0%
F-4表	38	84.4%	7	15.6%	45	100.0%
F-5表	1	33.3%	2	66.7%	3	100.0%
合計	1,579	87.3%	229	12.7%	1,808	100.0%

### 4. 主な調査項目

- 基本属性は、年齢と障害者手帳分類
- A票、B票、C票は、就労状況と就労意向
- D票は、地域生活移行に対する意向
- E票は、介護保険サービス利用状況
- F票は、受けている教育（療育）段階に応じて、学校・サービス・就労・進路など
- A～E票に新たに「社会生活を営む上で必要なこと」の設問を入れた。

項目	在宅者調査 A票、B票、C票	施設入所者調査 D票	高齢者調査 E票
基本属性	○	○	○
生活の場について	○	○	○
文化・スポーツについて	○	○	○
就労について	○		
介護保険サービスの利用について			○
入院・通院について	○		○
外出について	○	○	○
相談窓口について	○	○	○
災害時について	○		○
障害のある人への差別について	○	○	○
社会生活について	○	○	○

項目		F-1票	F-2票、F-3票 F-4票	F-5票
共通回答項目 (Ⅰ)	基本属性	○ (全票共通)		
	生活の場について			
	文化・スポーツについて			
	相談窓口について			
	相談支援ファイル「すこやかファイル」について			
	在宅福祉サービスについて			
	障害のある人への差別について			
個別回答項目 (Ⅱ)	学校について		○	
	サービス利用について	○	○	
	就労について			○
	生活の場について			○
	外出について			○
	相談場所について	○	○	○
	保育園や幼稚園、認定こども園の利用について	○		
	個別の教育支援計画及び指導計画について		○	
	進学・進路先について	○	○	

## 5. 基本属性

### (1) 年齢

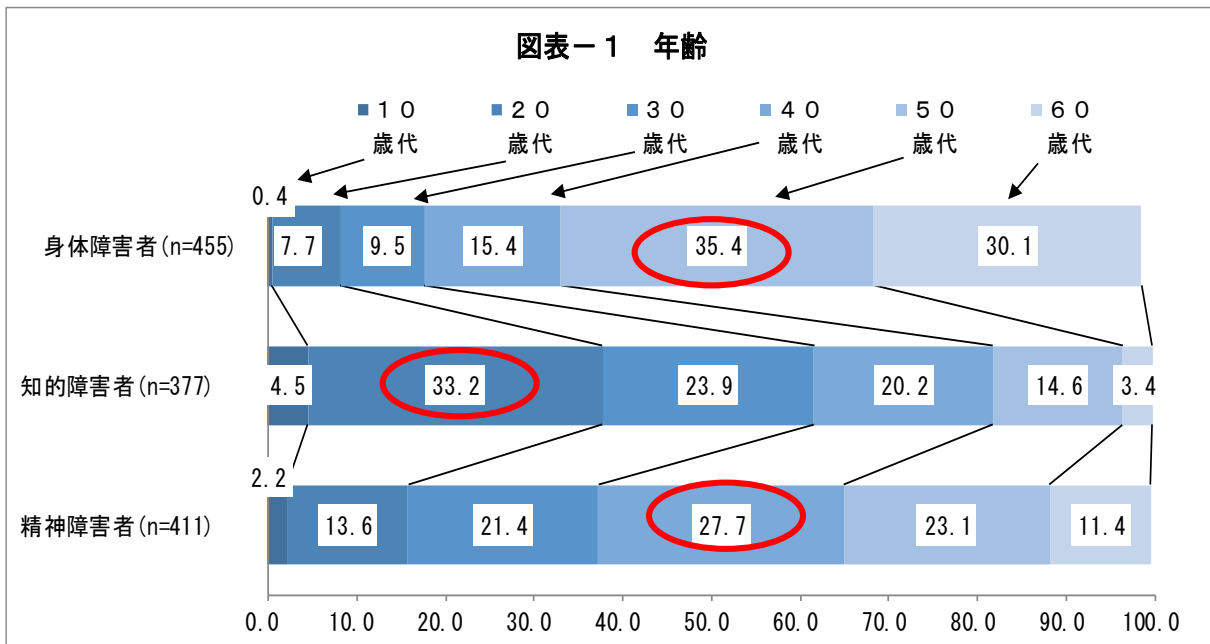
年齢について尋ねた。

#### ①身体障害者・知的障害者・精神障害者の年齢

身体障害者では、「50歳代」が35.4%と最も高く、次に「60歳代」が30.1%である。

知的障害者では、「20歳代」が33.2%と最も高く、次に「30歳代」が23.9%である。

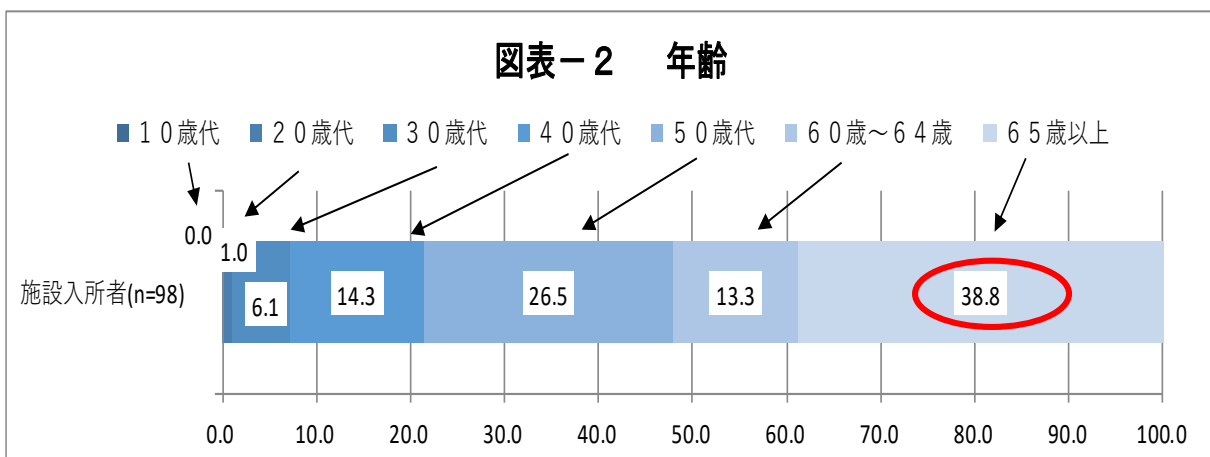
精神障害者では、「40歳代」が27.7%と最も高く、次に「50歳代」が23.1%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

#### ②施設入所者の年齢

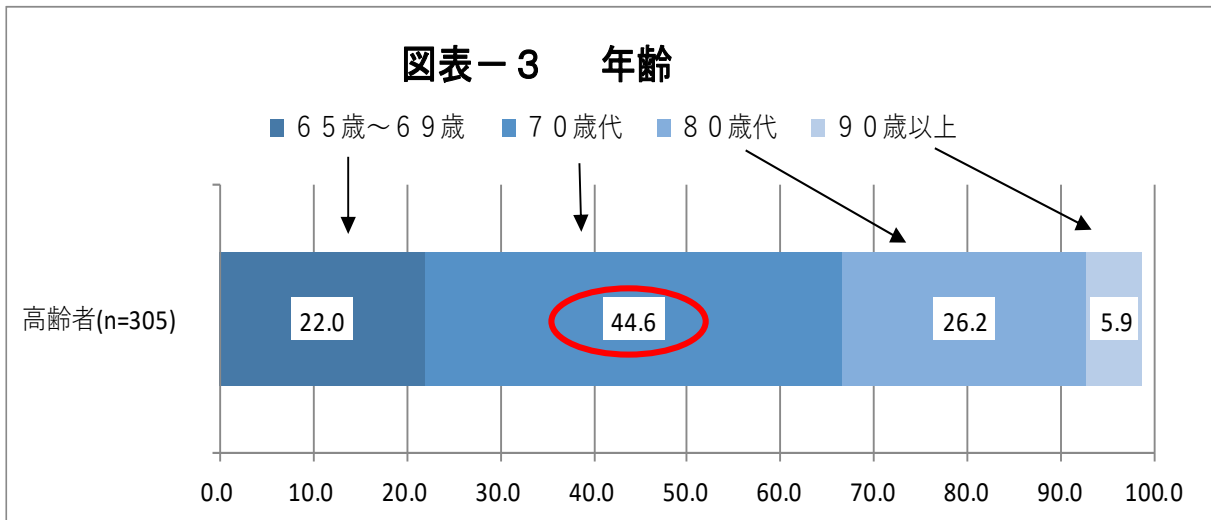
「65歳以上」が38.8%と最も高く、次に「50歳代」が26.5%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

### ③高齢者の年齢

「70歳代」が44.6%と最も高く、次に「80歳代」が26.2%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

### (2) 障害の種類・等級

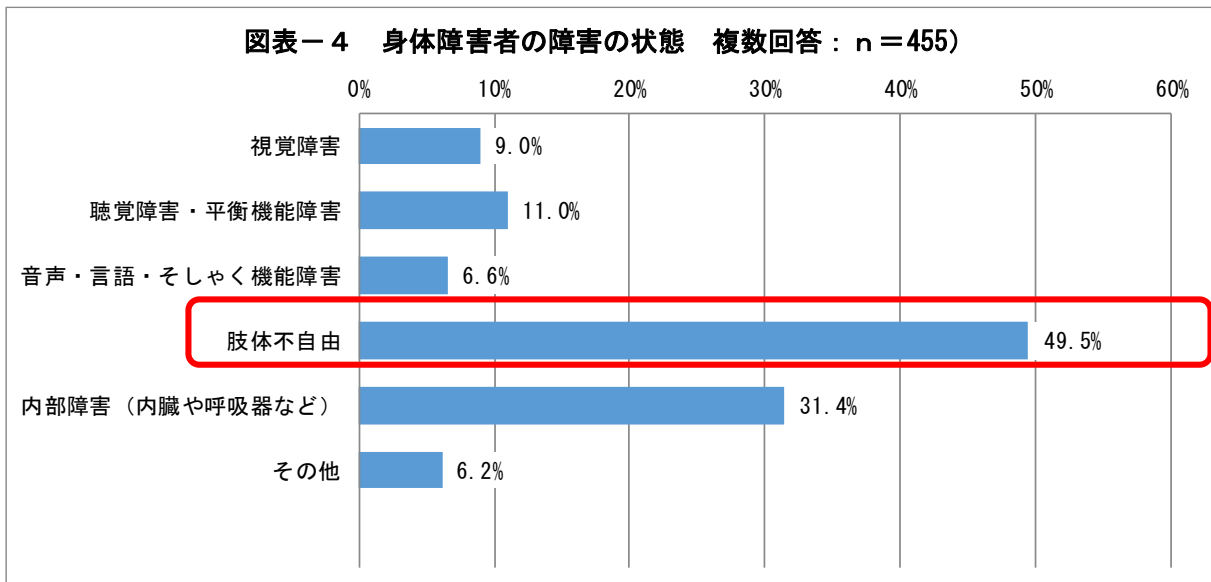
障害の種類と総合等級について尋ねた。

「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の3項目とした。

#### ①身体障害者の障害の状態

複数回答として回答してもらった。

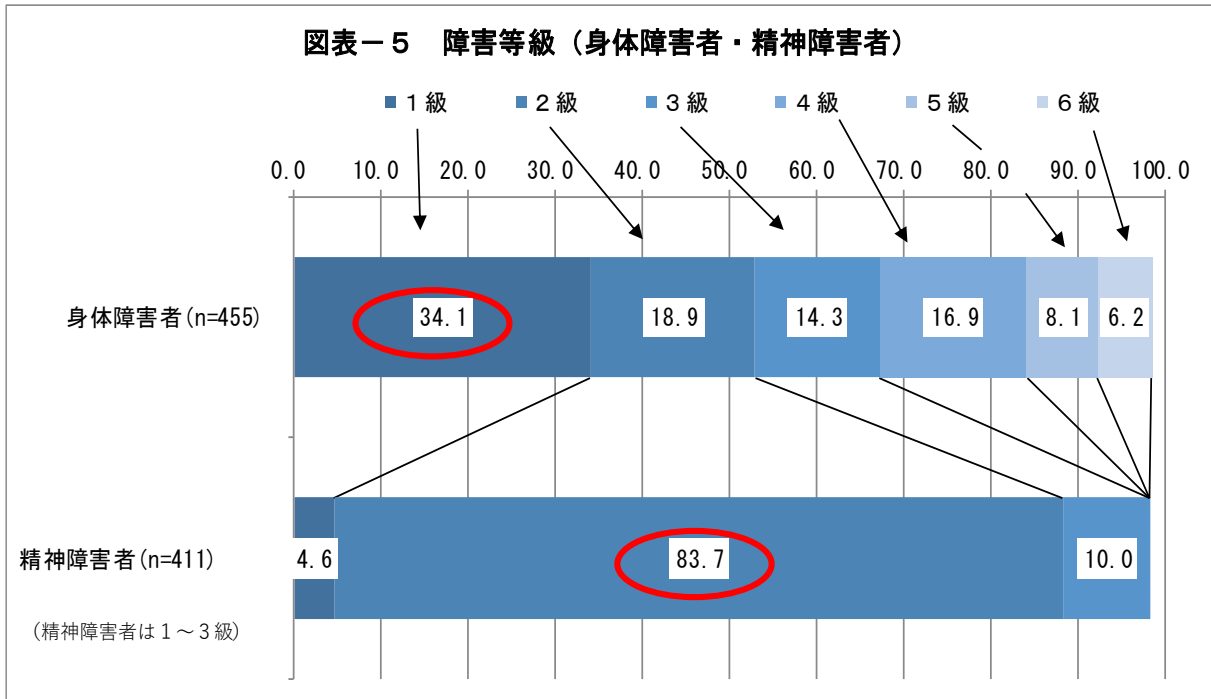
「肢体不自由」が49.5%と最も高く、次に「内部障害（内臓や呼吸器など）」が31.4%、「聴覚障害・平衡機能障害」が11.0%である。



②身体障害者と精神障害者の障害等級

身体障害者では、「1級」が34.1%と最も高く、次に「2級」が18.9%、「4級」が16.9%である。

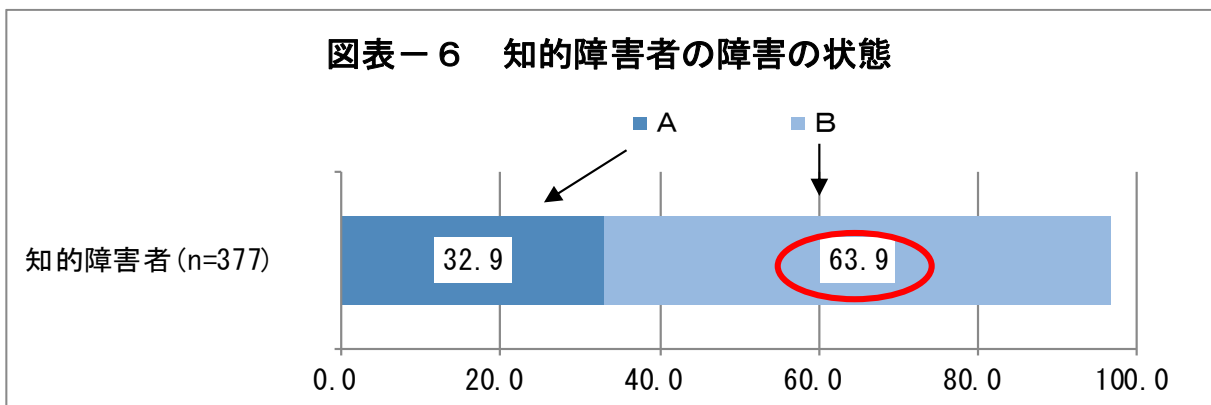
精神障害者では、「2級」が83.7%と最も高く、次に「3級」が10.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③知的障害者の障害等級

知的障害者では、「B」が63.9%と最も高く、次に「A」が32.9%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

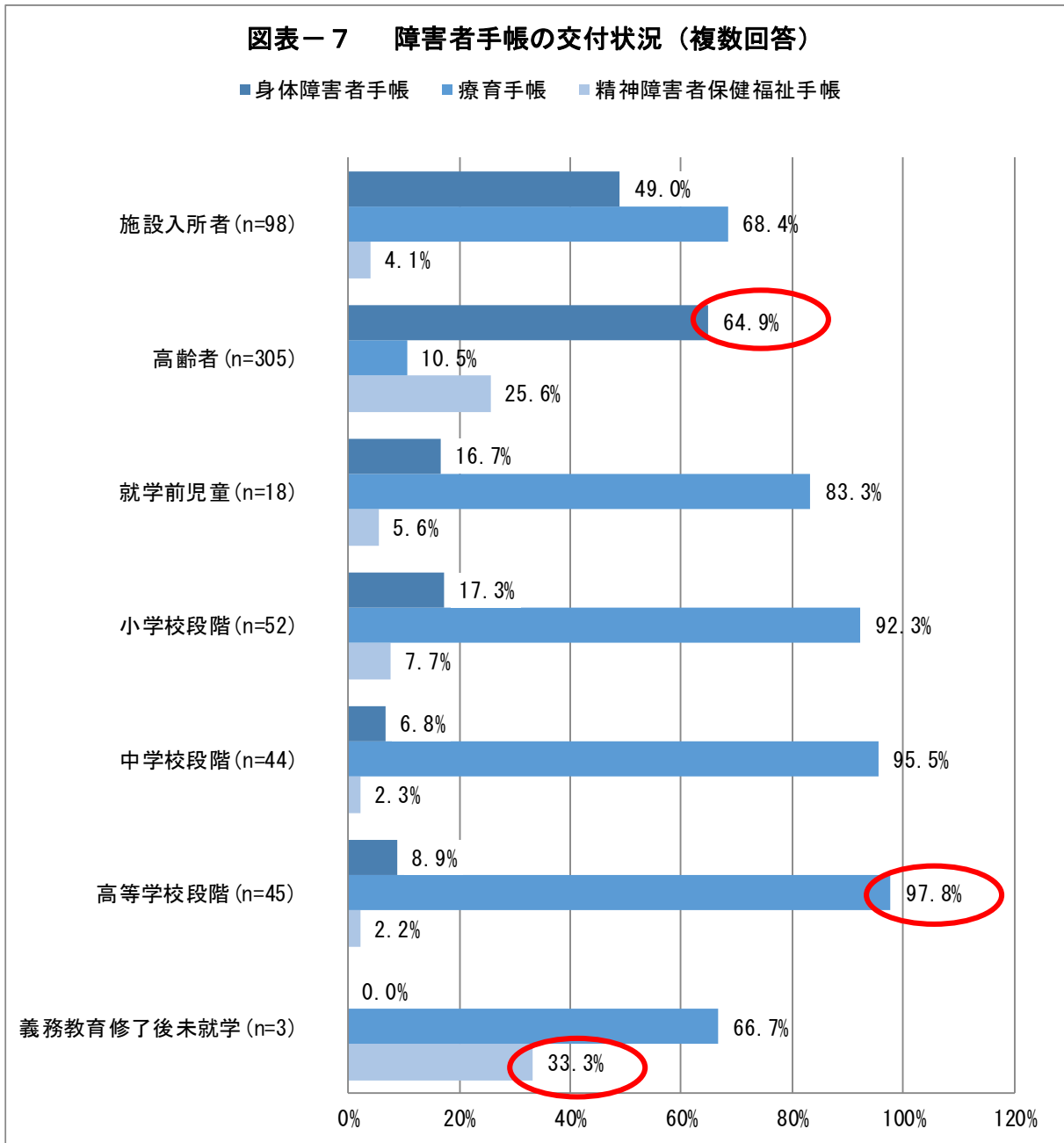
④施設入所者、高齢者・障害児の障害者手帳交付状況

複数回答として回答してもらった。

身体障害者手帳では、「高齢者」が64.9%と最も高く、次に「施設入所者」が49.0%である。

療育手帳では、「高等学校段階」が97.8%と最も高く、次に「中学校段階」が95.5%である。全般的に障害児の割合が高い。

精神障害者保健福祉手帳では、「義務教育修了後未就学」が33.3%と最も高く、次に「高齢者」が25.6%である。





## 6. 生活の場について

### ①世帯構成

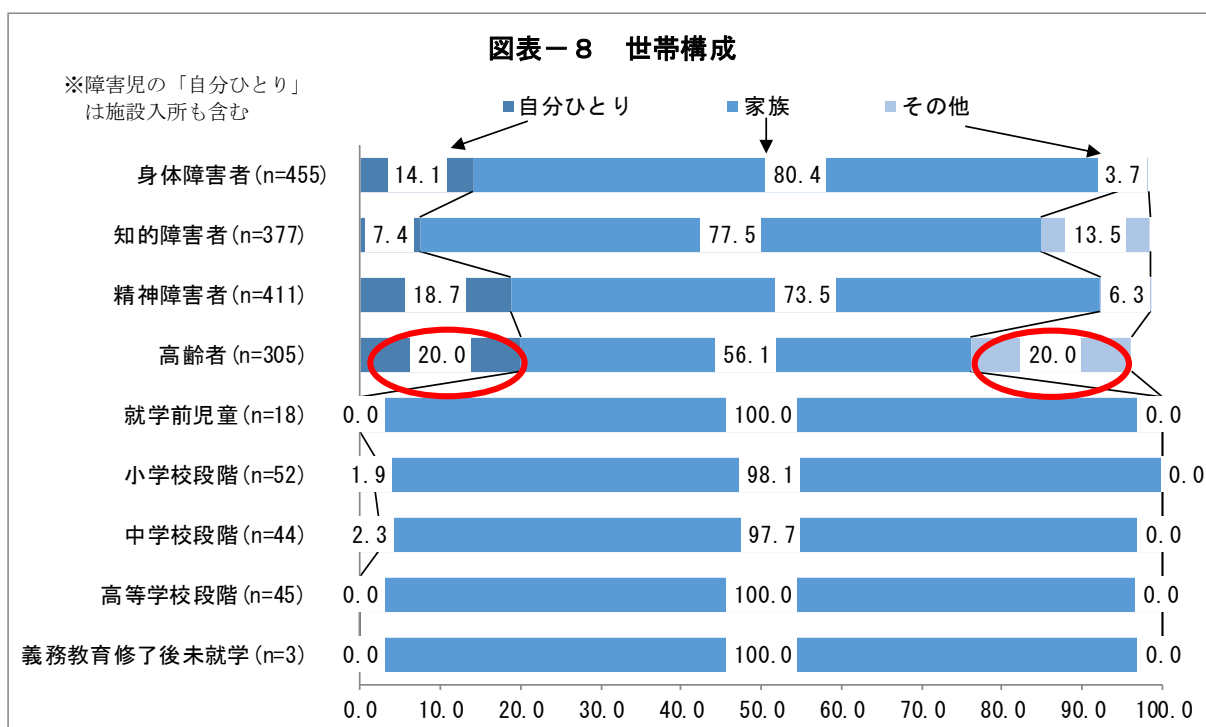
世帯構成を尋ねた。

「自分ひとり」「家族」「その他」の3項目とした。

「自分ひとり」では、「高齢者」が20.0%と最も高く、次に「精神障害者」が18.7%、「身体障害者」が14.1%である。

「家族」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児で概ね高い。また「身体障害者」も80.4%である。

「その他」では、「高齢者」が20.0%と最も高く、次に「知的障害者」が13.5%である。具体的には、病院や福祉施設（グループホーム等）が多かった。



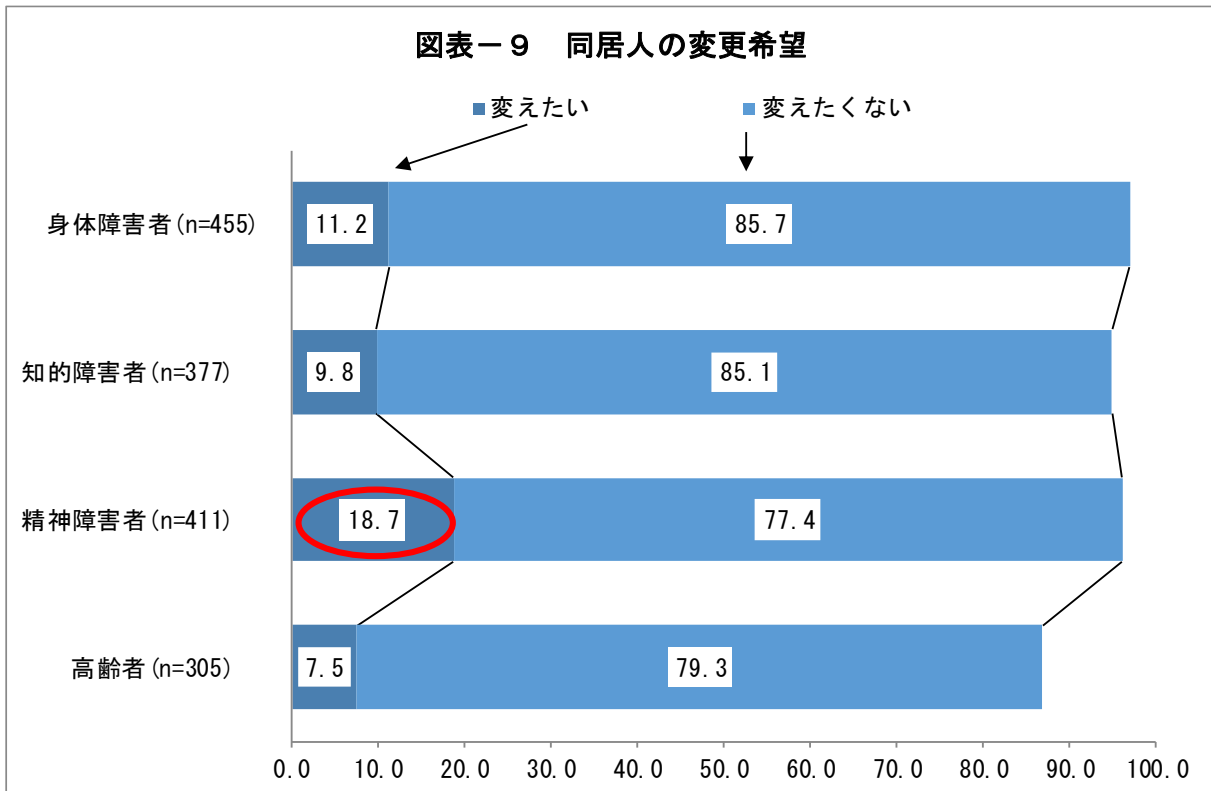
※無回答は割合が低いため除いてある。

## ②同居者の変更希望

「現在の同居者を変えたい」「現在の同居者を変えたくない」を尋ねた。

「変えたい」では、「精神障害者」が18.7%と最も高い。

「変えたくない」では、「身体障害者」が85.7%と最も高い。



※無回答は割合が低いため除いてある。

### ③昼間に利用したいサービスや支援

利用したいサービスや支援を尋ねた。(複数回答)

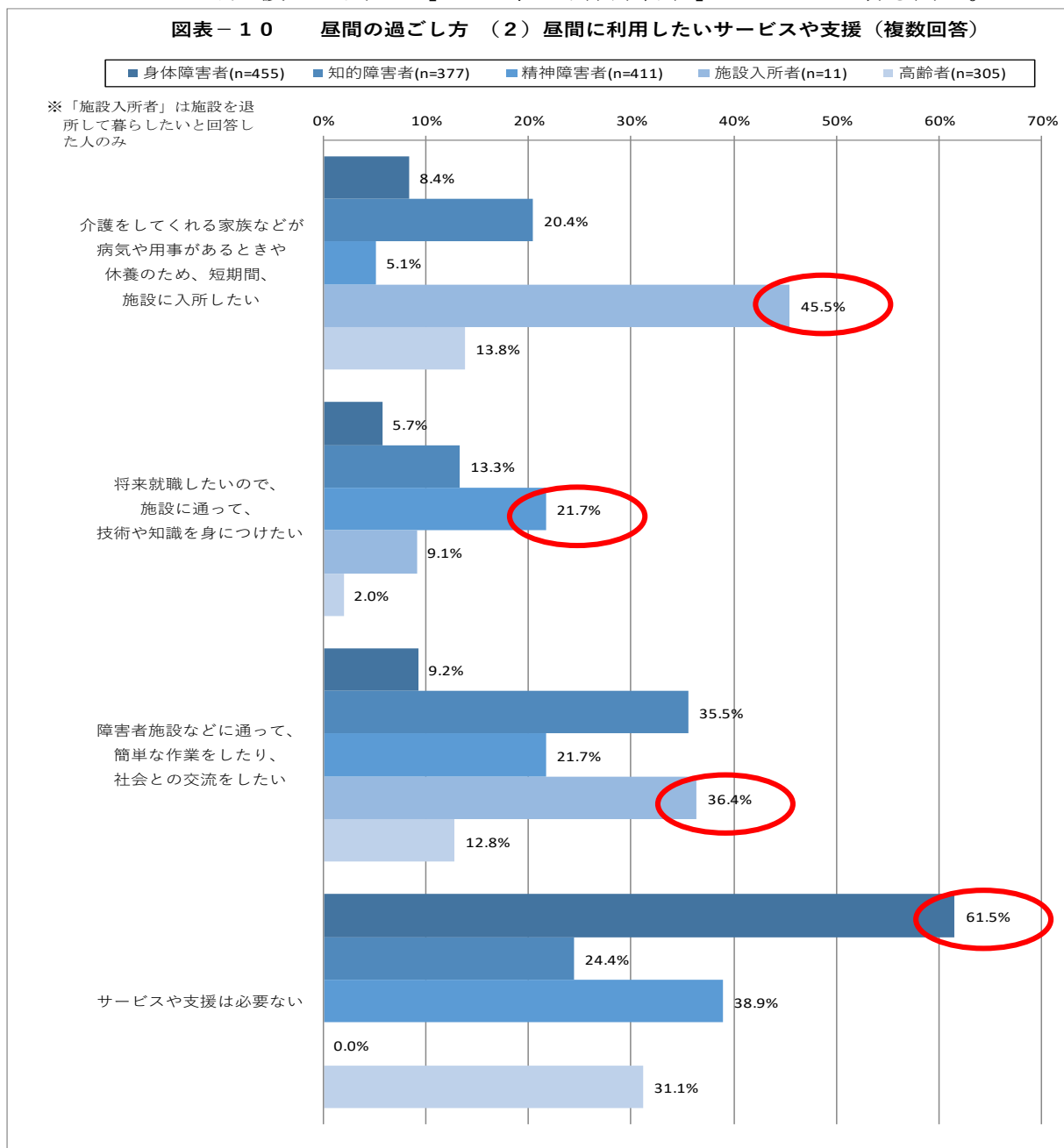
「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事援助を受けたい」「サービスや支援は必要ない」を含めて11項目を複数回答とした。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」では、「施設入所者」が45.5%と最も高い。

「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」では、「精神障害者」が21.7%と最も高い。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」では、「施設入所者」が36.4%、「知的障害者」が35.5%と最も高い。

「サービスや支援は必要ない」では、「身体障害者」が61.5%と最も高い。

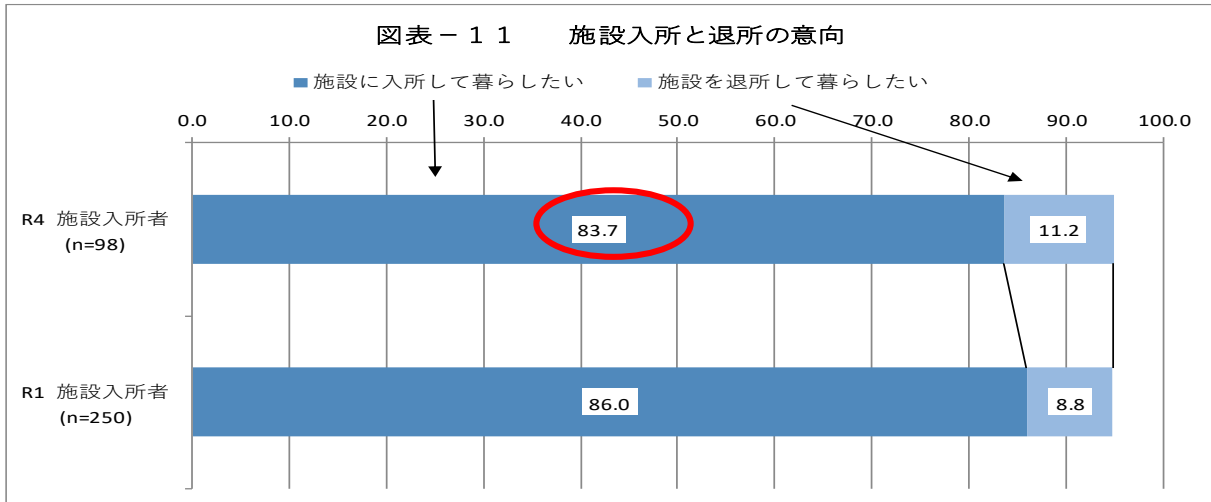


④施設入所と退所の意向（D票）

「施設に入所して暮らしたい」「施設を退所して暮らしたい」を尋ねた。

「施設に入所して暮らしたい」が83.7%と高く、「施設を退所して暮らしたい」が11.2%と低い。

R1と経年比較すると、「施設に入所して暮らしたい」は2ポイントほど低い。

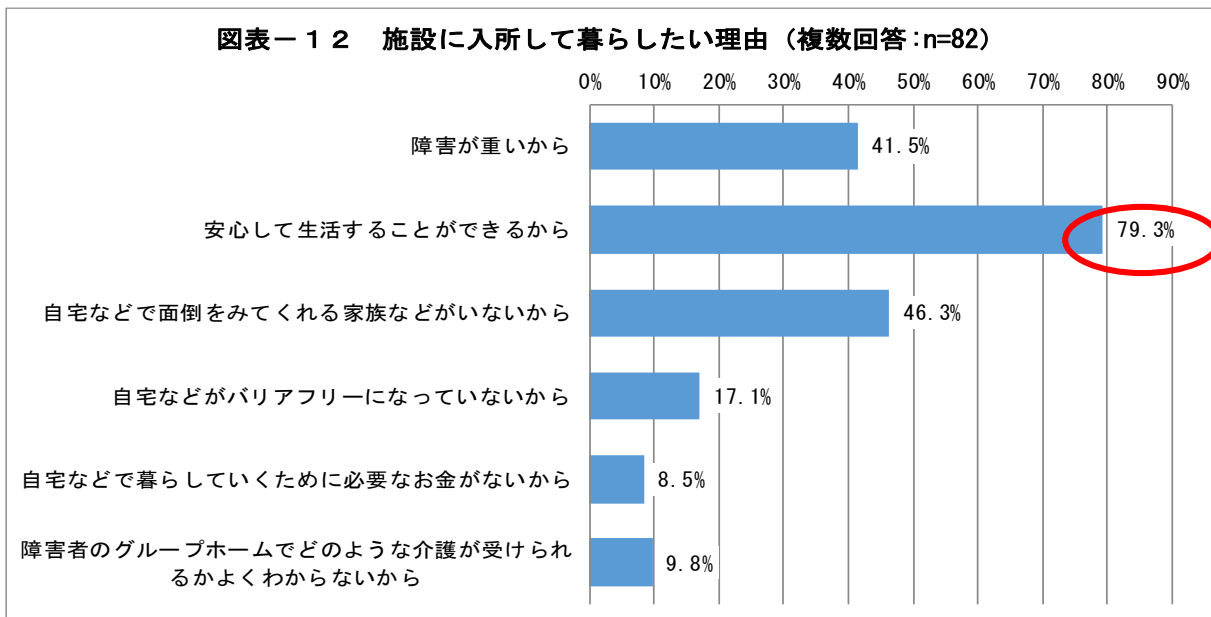


※無回答は割合が低いため除いてある。

⑤施設入所して暮らしたい理由（D票）

「障害が重いから」「安心して生活することができるから」「自宅などで面倒をみしてくれる家族などがいないから」を含めて7項目を複数回答とした。

「安心して生活することができるから」が79.3%と最も高く、次に「自宅などで面倒をみしてくれる家族などがいないから」が46.3%、「障害が重いから」が41.5%である。



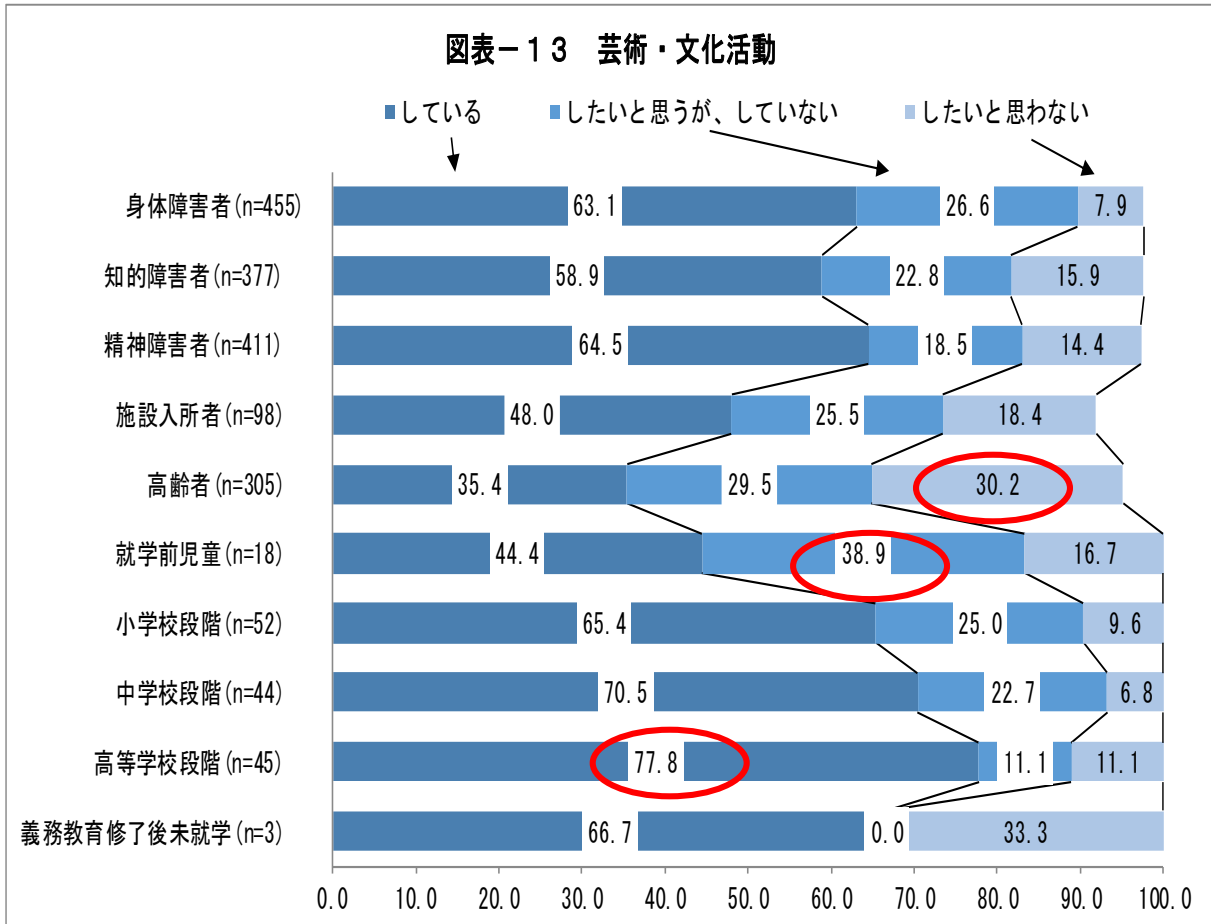
## 7. 文化・スポーツについて

### ①芸術・文化活動

「している」「したいと思うが、していない」「したいと思わない」を尋ねた。

「している」では、障害児が全般的に高く、「精神障害者」が64.5%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「していない」では、「高齢者」が30.2%と最も高く、次に「施設入所者」が18.4%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

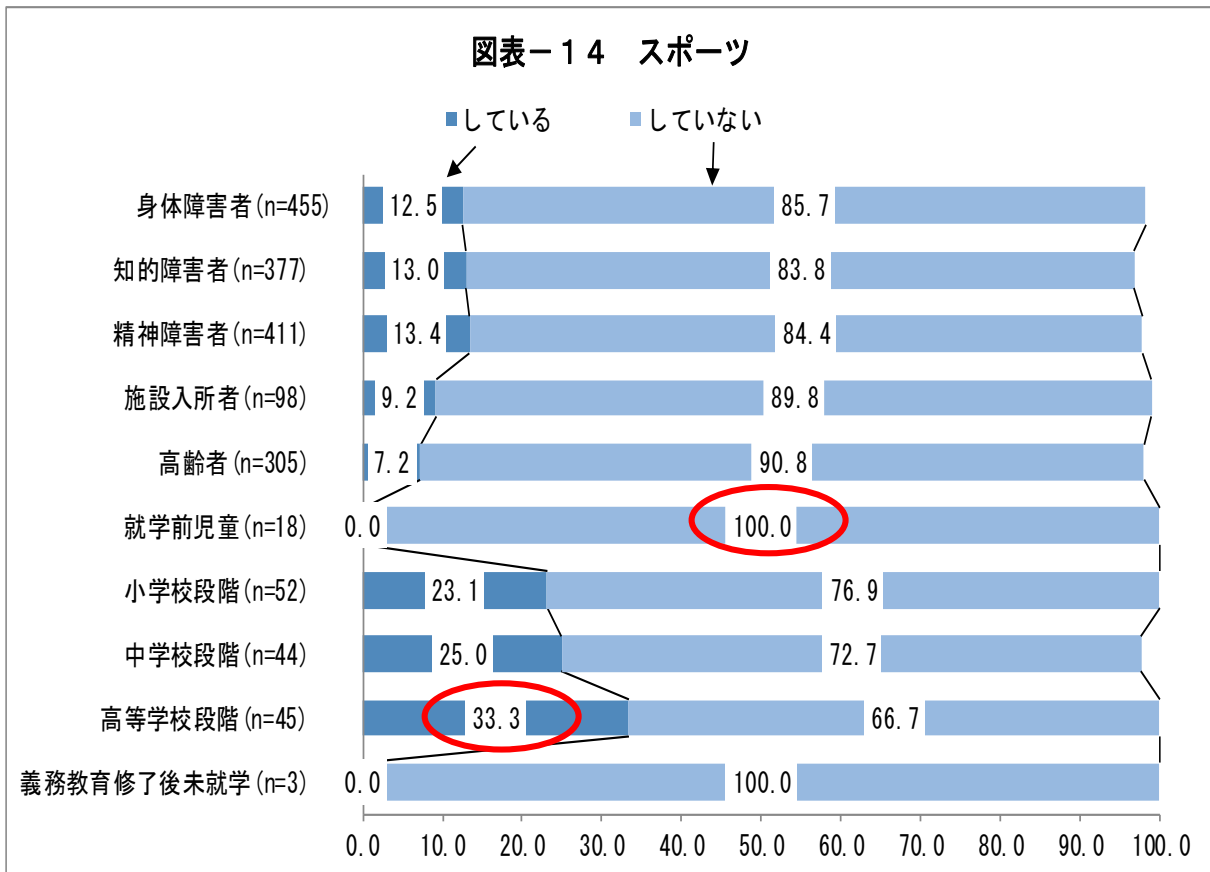
※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

## ②スポーツ

「している」「していない」を尋ねた。

「している」では、障害児が全般的に高く、「精神障害者」も13.4%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「していない」では、障害児である「就学前児童」が100.0%と最も高く、次に「高齢者」が90.8%である。また身体障害者、知的障害者、精神障害者、施設入所者は、ともに80%以上である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

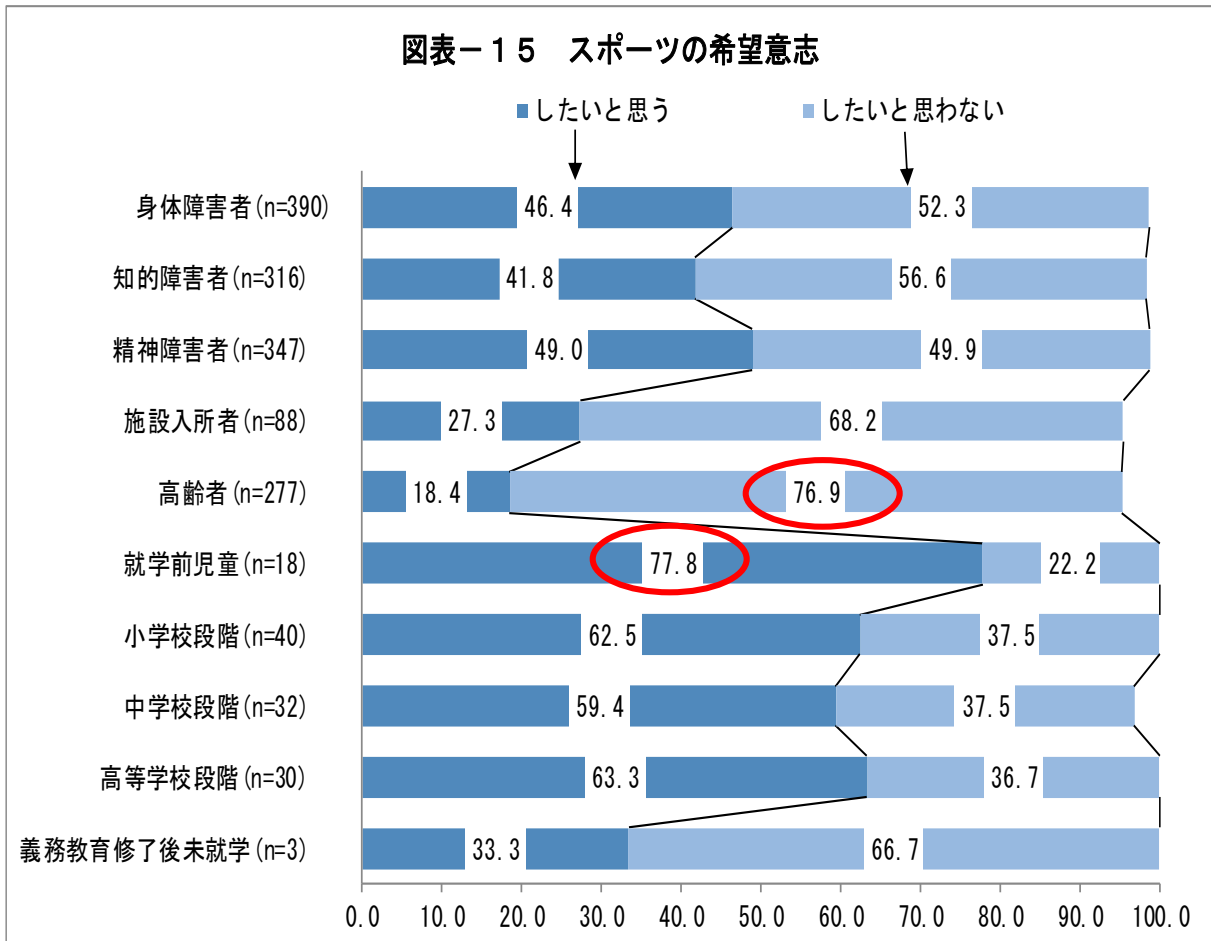
※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

### ③スポーツの希望意志

「していない」と回答した人に、機会があれば「したいと思う」「したいと思わない」を尋ねた。

「したいと思う」では、障害児が全般的に高く、特に「就学前児童」が77.8%である。また「精神障害者」も49.0%である。

「したいと思わない」では、「高齢者」が76.9%と最も高く、次に「施設入所者」が68.2%である。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

## 8. 就労について

### ①就労状況

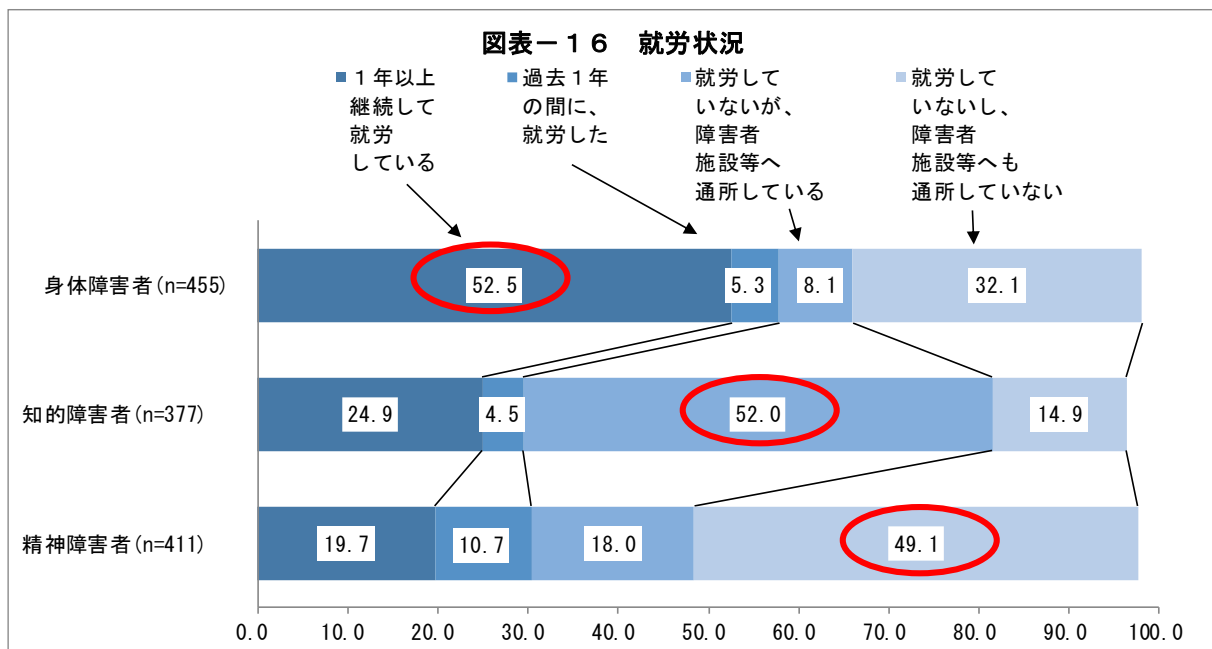
就労の状況を尋ねた。

「1年以上継続して就労している」「過去1年の間に、就労した」「就労していないが、障害者施設等へ通所している」「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」の4項目とした。

「1年以上継続して就労している」では、「身体障害者」が52.5%と最も高く、次に「知的障害者」が24.9%である。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」では、「知的障害者」が52.0%と最も高く、次に「精神障害者」が18.0%である。

「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」では、「精神障害者」が49.1%と最も高く、次に「身体障害者」が32.1%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。



## ②就労継続できる理由

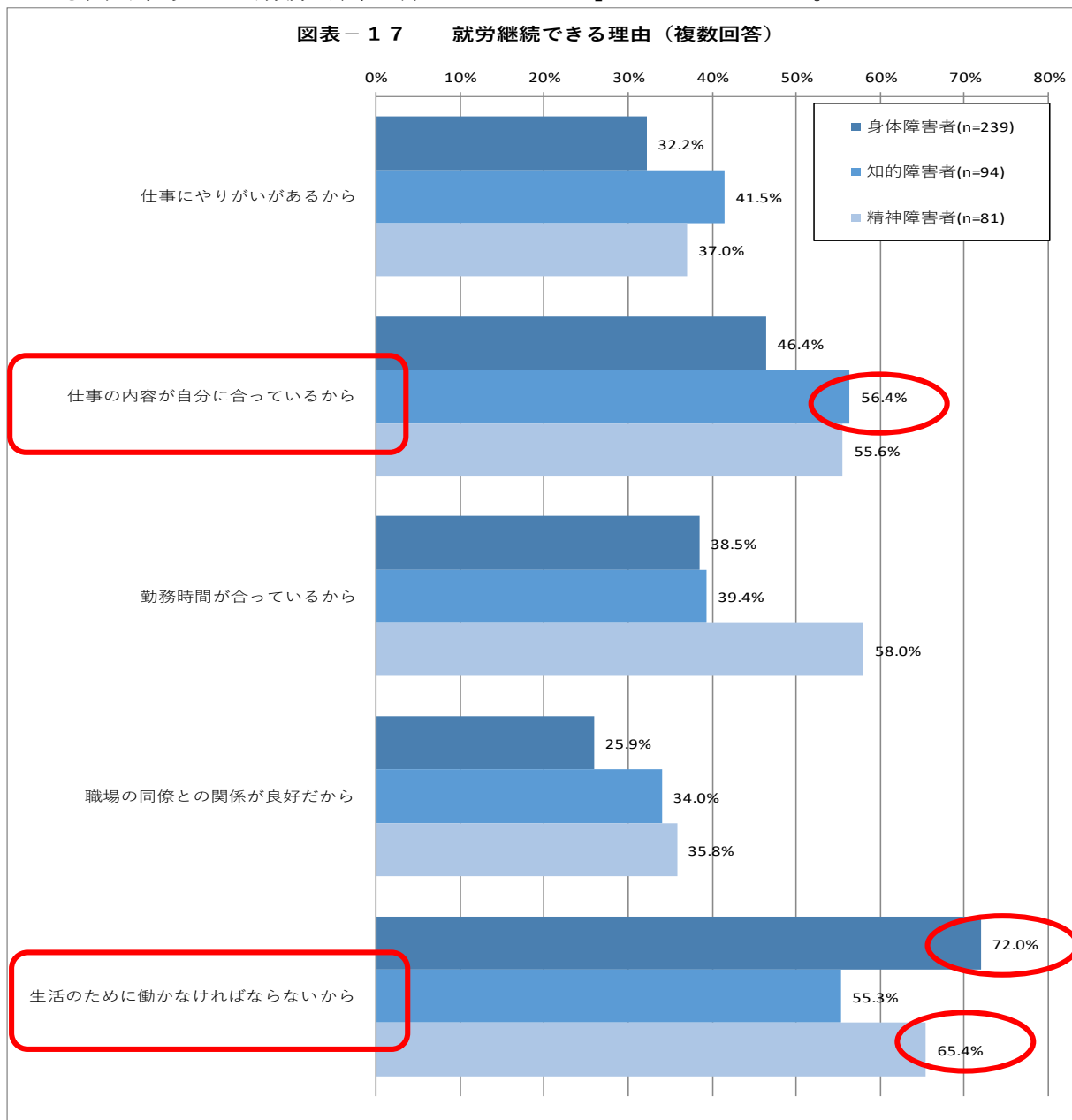
「1年以上継続して就労している」と回答した人に、就労を継続できる理由を尋ねた。

「仕事にやりがいがあるから」「仕事の内容が自分に合っているから」「勤務時間が合っているから」「職場の同僚との関係が良好だから」「生活のために働かなければならないから」を含めて10項目を複数回答とした。

「身体障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が72.0%と最も高く、次に「仕事の内容が自分に合っているから」が46.4%である。

「知的障害者」では、「仕事の内容が自分に合っているから」が56.4%と最も高く、次に「生活のために働かなければならないから」が55.3%である。

「精神障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が65.4%と最も高く、次に「勤務時間が合っているから」が58.0%である。



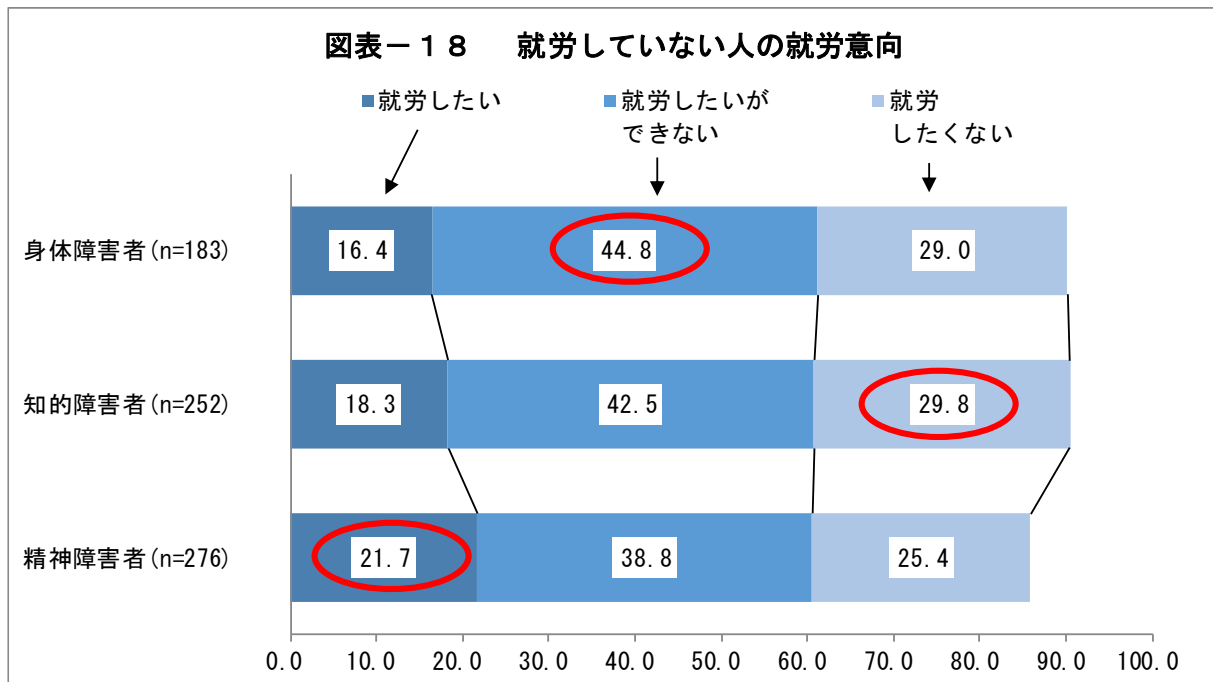
### ③就労していない人の就労意向

「就労したい」「就労したいができない」「就労したくない」を尋ねた。

「就労したい」では、「精神障害者」が21.7%と最も高く、次に「知的障害者」が18.3%である。

「就労したいができない」では、「身体障害者」が44.8%と最も高く、次に「私的障害者」が42.5%である。

「就労したくない」では、「知的障害者」が29.8%と最も高く、次に「身体障害者」が29.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

④就労するために必要なこと

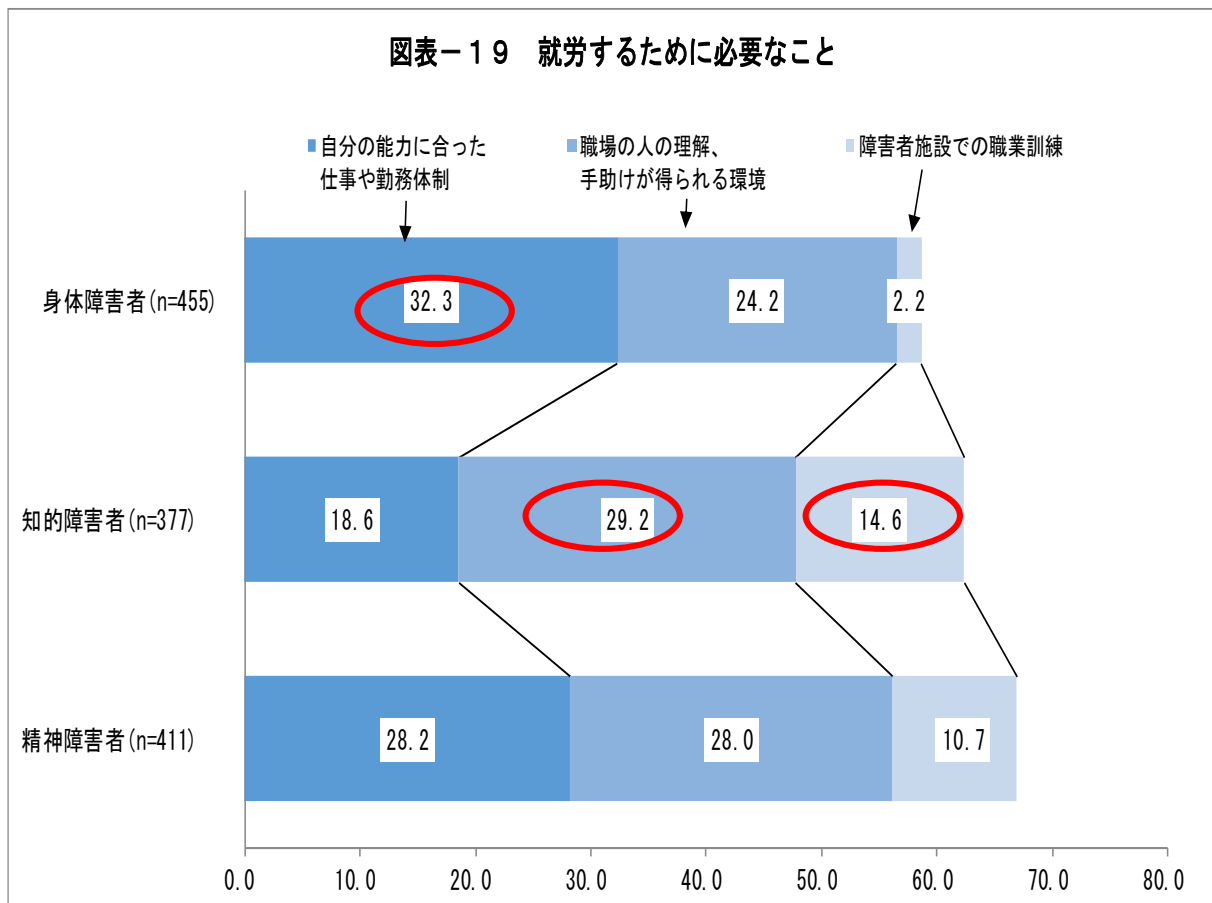
就労するために必要なことを尋ねた。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」「職場の人の理解、手助けが得られる環境」「障害者施設での職業訓練」を含めて8項目とした。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」では、「身体障害者」が32.3%と最も高く、次に「精神障害者」が28.2%である。

「職場の人の理解、手助けが得られる環境」では、「知的障害者」が29.2%と最も高く、次に「精神障害者」が28.0%である。

「障害者施設での職業訓練」では、「知的障害者」が14.6%と最も高く、次に「精神障害者」が10.7%である。



※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

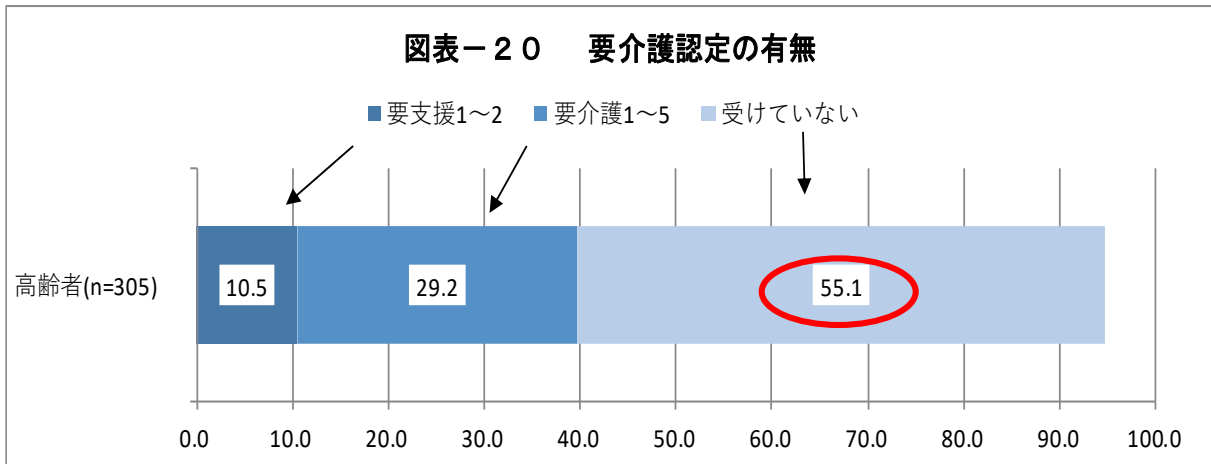
## 9. 介護保険サービスの利用について（E票）

### ①要介護認定の有無

介護保険の要介護認定を尋ねた。「要支援」、「要介護」、「受けていない」に纏めた。

「要支援1～2」が10.5%、「要介護1～5」が29.2%である。

また、「受けていない」が55.1%と最も高い。



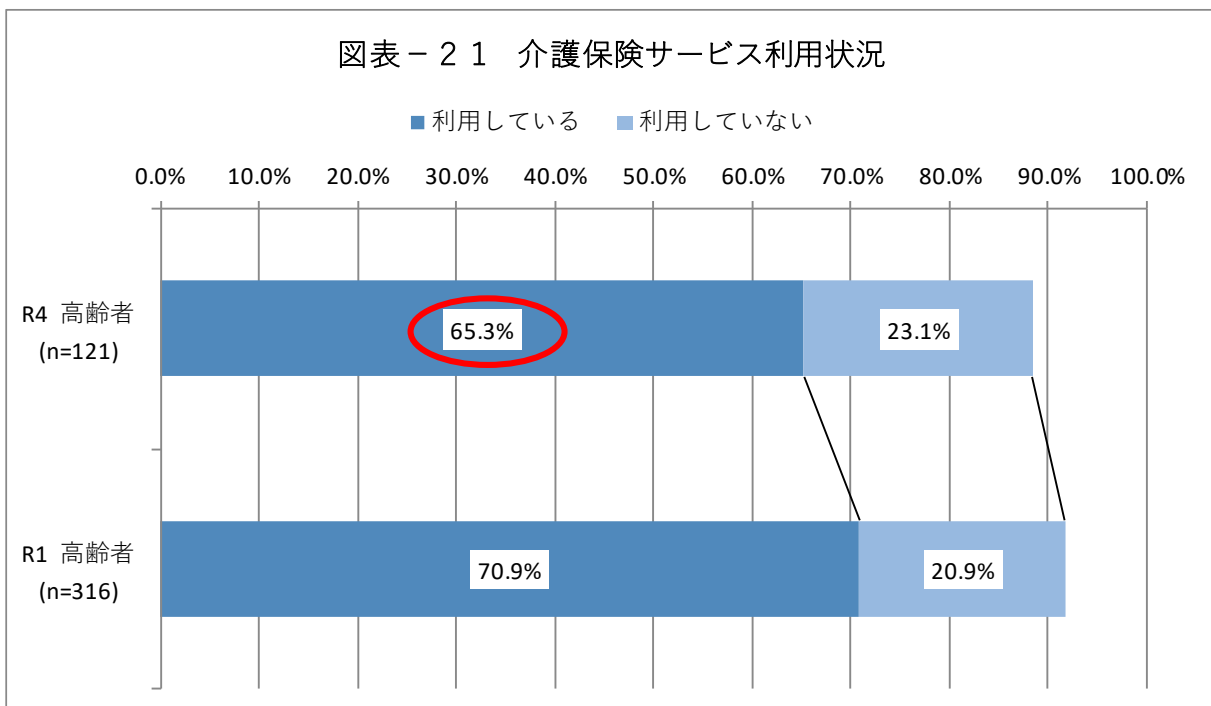
※無回答は割合が低いため除いてある。

### ②介護保険サービス利用状況

「利用している」「利用していない」を尋ねた。

「利用している」が65.3%と高く、「利用していない」が23.1%と低い。

R1と経年比較すると、「利用している」は5ポイントほど低い。



※無回答は割合が低いため除いてある。

## 10. 外出について

外出の頻度を尋ねた。「ほぼ毎日」「週に2～3回」「週に1回」「月に2～3回」「月に1回」「年に数回」「まったく外出しない」の7項目とした。

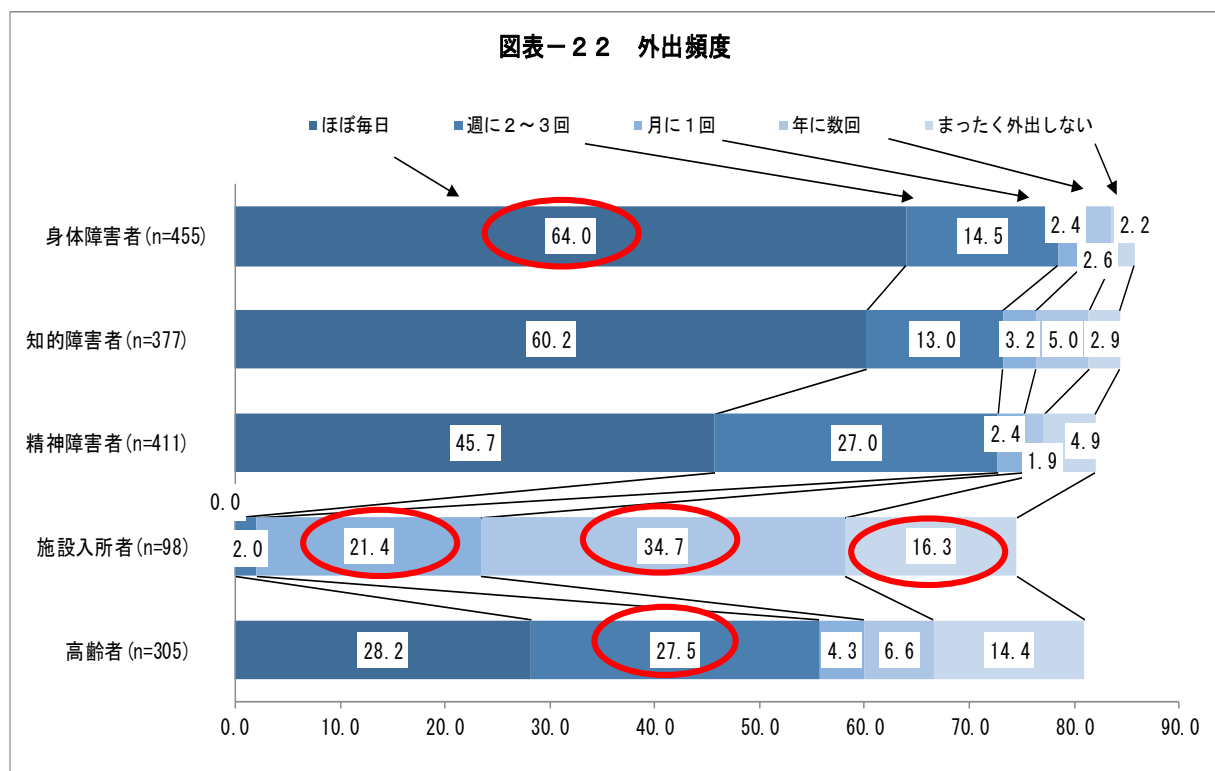
「ほぼ毎日」では、「身体障害者」が64.0%と最も高く、次に「知的障害者」が60.2%である。

「週に2～3回」では、「高齢者」が27.5%と最も高く、次に「精神障害者」が27.0%である。

「月に1回」では、「施設入所者」が21.4%である。

「年に数回」では、「施設入所者」が34.7%である。

「まったく外出しない」では、「施設入所者」が16.3%と最も高く、次に「高齢者」が14.4%である。



※上記2項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

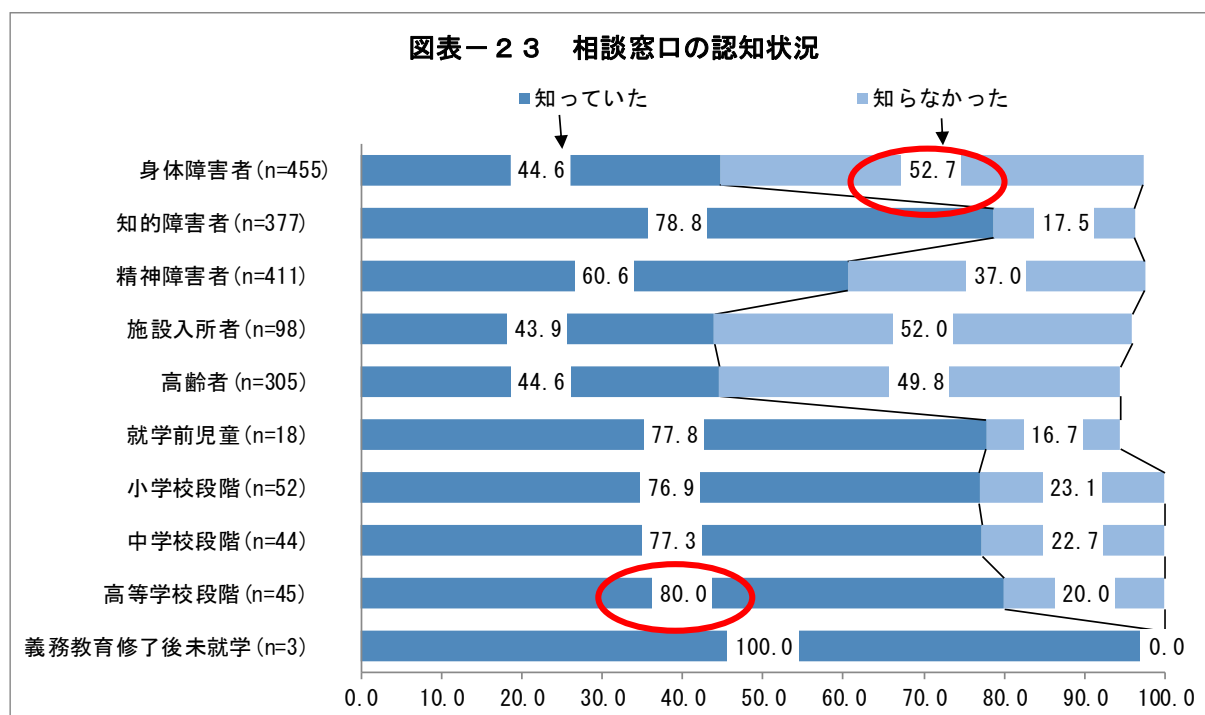
## 11. 相談窓口について

### ①相談窓口の認知状況

「知っていた」「知らなかった」を尋ねた。

「知っていた」では、障害児が全般的に高く、特に「高等学校段階」が80.0%である。また「知的障害者」も78.8%である。

「していない」では、「身体障害者」が52.7%と最も高く、次に「施設入所者」が52.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

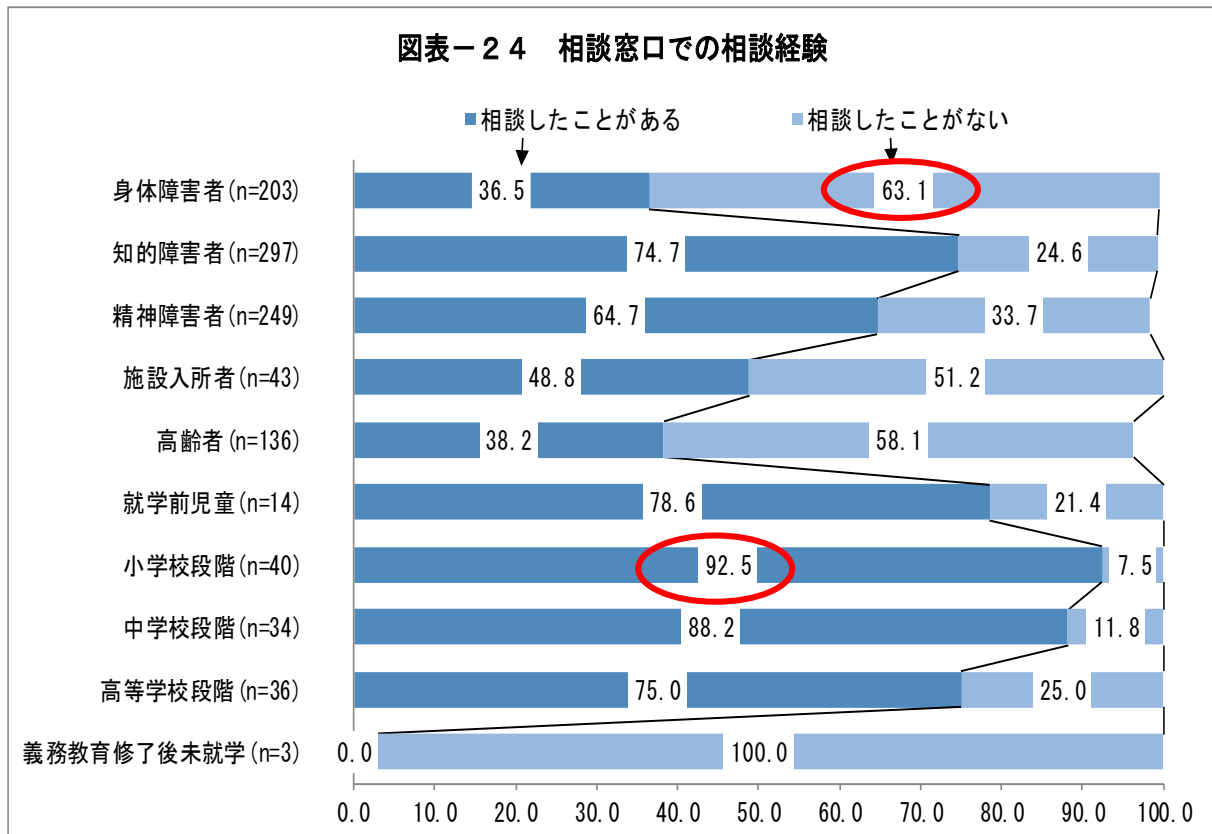
※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

## ②相談窓口での相談経験

「知っていた」と回答した人に、「相談したことがある」「相談したことがない」を尋ねた。

「相談したことがある」では、障害児が全般的に高く、特に「小学校段階」が92.5%と最も高く、次に「中学校段階」が88.2%である。また「知的障害者」も74.7%である。

「相談したことがない」では、「身体障害者」が63.1%と最も高く、次に「高齢者」が58.1%、「施設入所者」が51.2%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

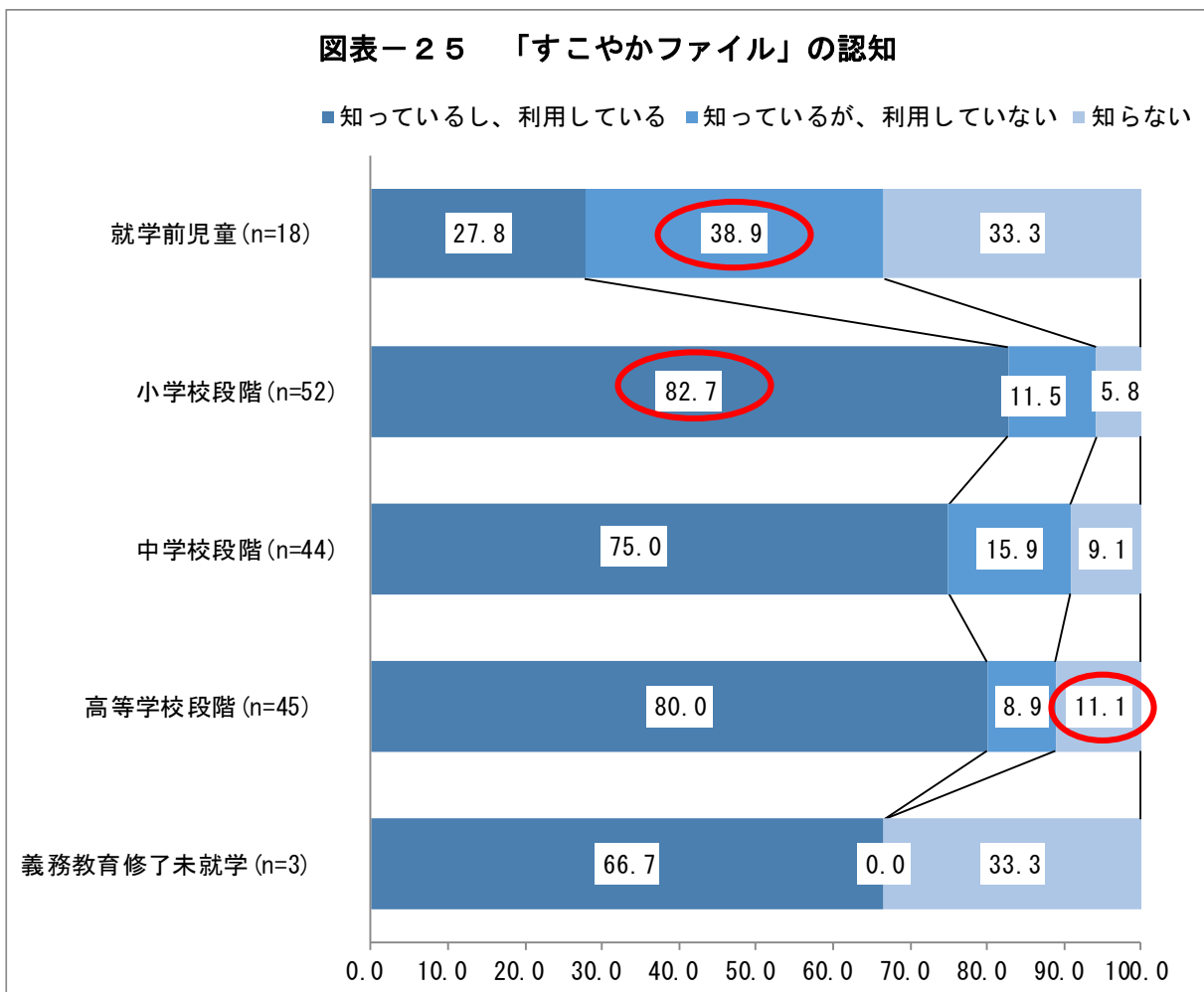
③ 「すこやかファイル」の認知

「知っているし、利用している」「知っているが、利用していない」「知らない」を尋ねた。

「知っているし、利用している」では、「小学校段階」が82.7%と最も高く、次に「高等学校段階」が80.0%である。

「知っているが、利用していない」では、「就学前児童」が38.9%と最も高く、次に「中学校段階」が15.9%である。

「知らない」では、「就学前児童」が33.3%と最も高く、次に「高等学校段階」が11.1%である。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。



## 12. 災害時について

災害時に困ることや心配なことを尋ねた。「避難場所を知らない」「避難場所まで行けない」「緊急時に助けてくれる人がいない」「緊急時に情報を得る手段がない」「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」「その他」の6項目とした。

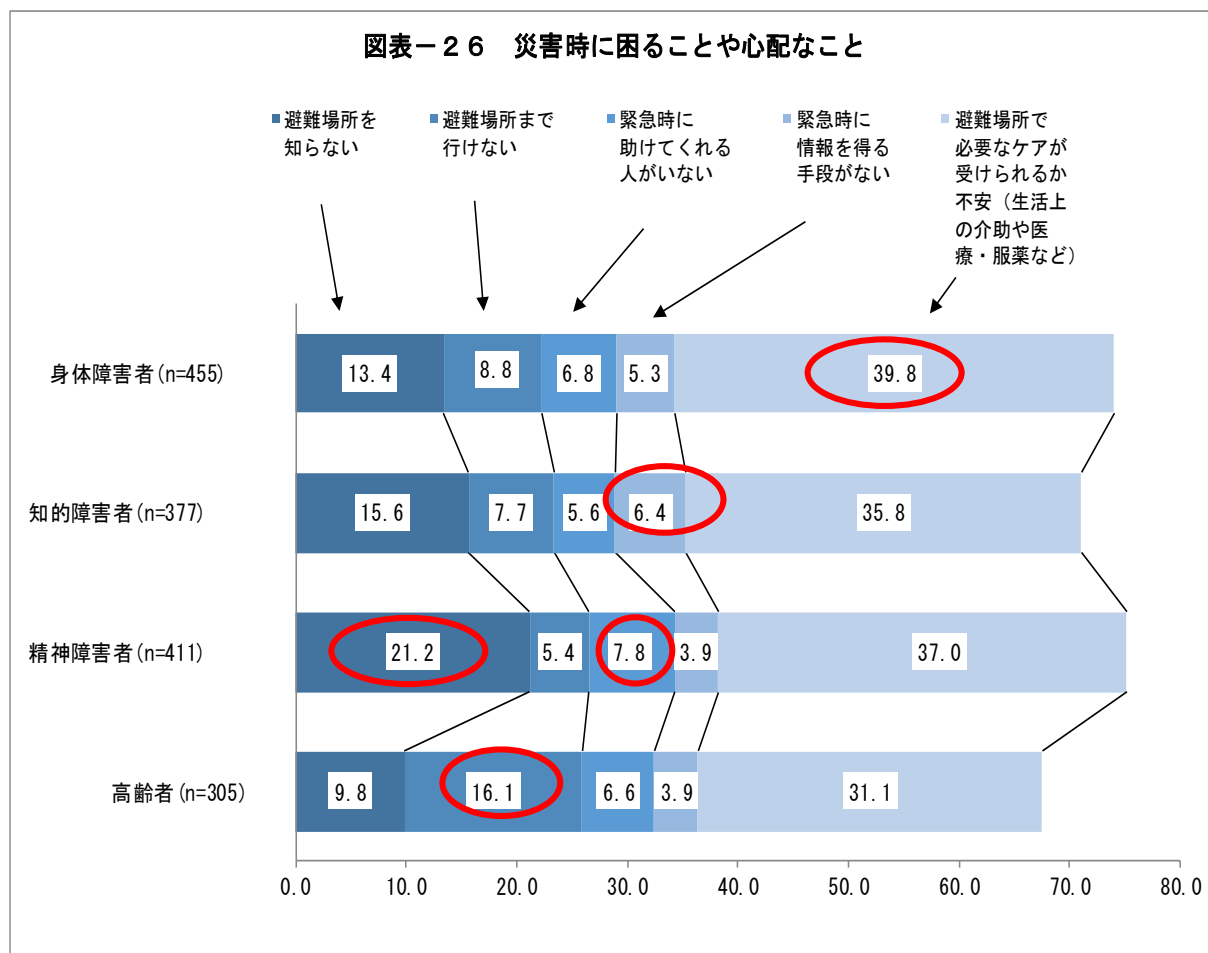
「避難場所を知らない」では、「精神障害者」が21.2%と最も高く、次に「知的障害者」が15.6%である。

「避難場所まで行けない」では、「高齢者」が16.1%と最も高く、次に「身体障害者」が8.8%である。

「緊急時に助けてくれる人がいない」では、「精神障害者」が7.8%と最も高く、次に「身体障害者」が6.8%である。

「緊急時に情報を得る手段がない」では、「知的障害者」が6.4%と最も高く、次に「身体障害者」が5.3%である。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」では、「身体障害者」が39.8%と最も高く、次に「精神障害者」が37.0%である。



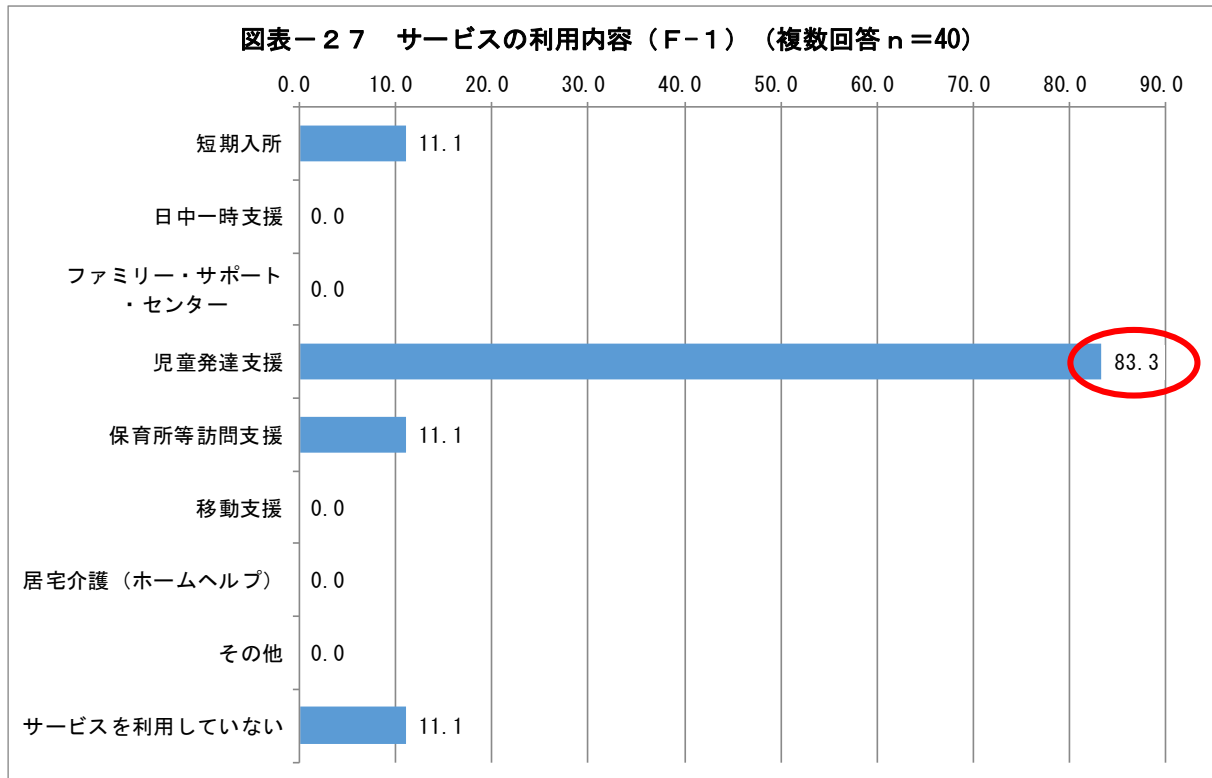
※「その他」と無回答は割合が低いため除いてある。

### 13. サービスについて (F票)

#### ①サービスの利用内容 (就学前児童)

「短期入所 (ショートステイ)」「日中一時支援」「総合支援学校放課後サポート事業」「放課後等デイサービス」を含めて9項目を複数回答とした。

「就学前児童」では、「児童発達支援」が83.3%と最も高い。  
「短期入所」「保育所等訪問支援」では、それぞれ11.1%である。  
「サービスを利用していない」では、11.1%である。



②サービスの利用内容（小学校段階・中学校段階・高等学校段階）

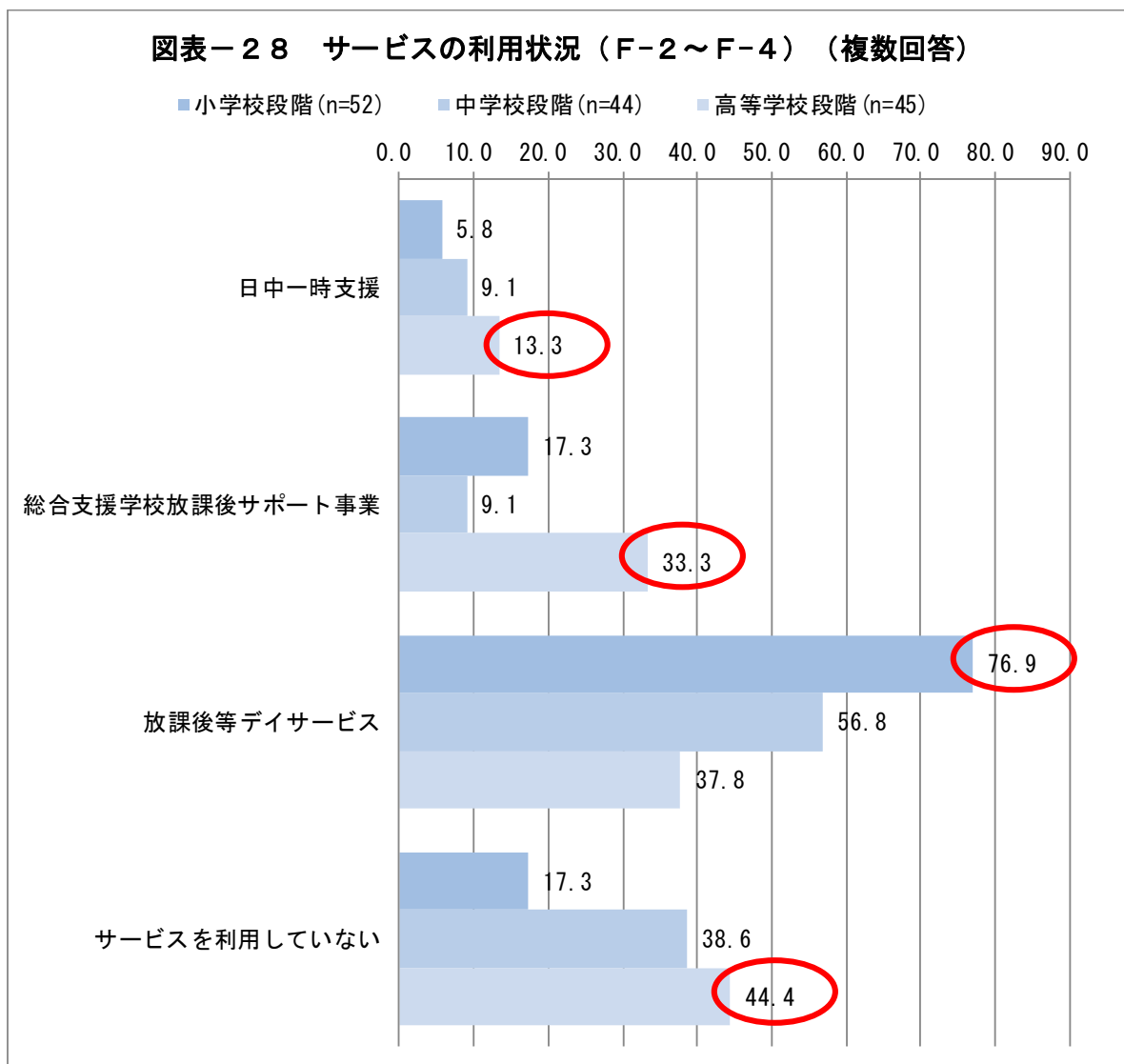
「短期入所（ショートステイ）」「日中一時支援」「総合支援学校放課後サポート事業」「放課後等デイサービス」を含めて10項目を複数回答とした。

「日中一時支援」では、「高等学校段階」が13.3%と最も高く、次に「中学校段階」が9.1%である。

「総合支援学校放課後サポート事業」では、「高等学校段階」が33.3%と最も高く、次に「小学校段階」が17.3%である。

「放課後等デイサービス」では、「小学校段階」が76.9%と最も高く、次に「中学校段階」が56.8%である。サービスの中では、各段階で最も利用されている。

「サービスを利用していない」では、「高等学校段階」が44.4%と最も高く、次に「中学校段階」が38.6%である。



#### 14. 障害のある人への差別について

障害を理由として差別されたと感じた場面を尋ねた。

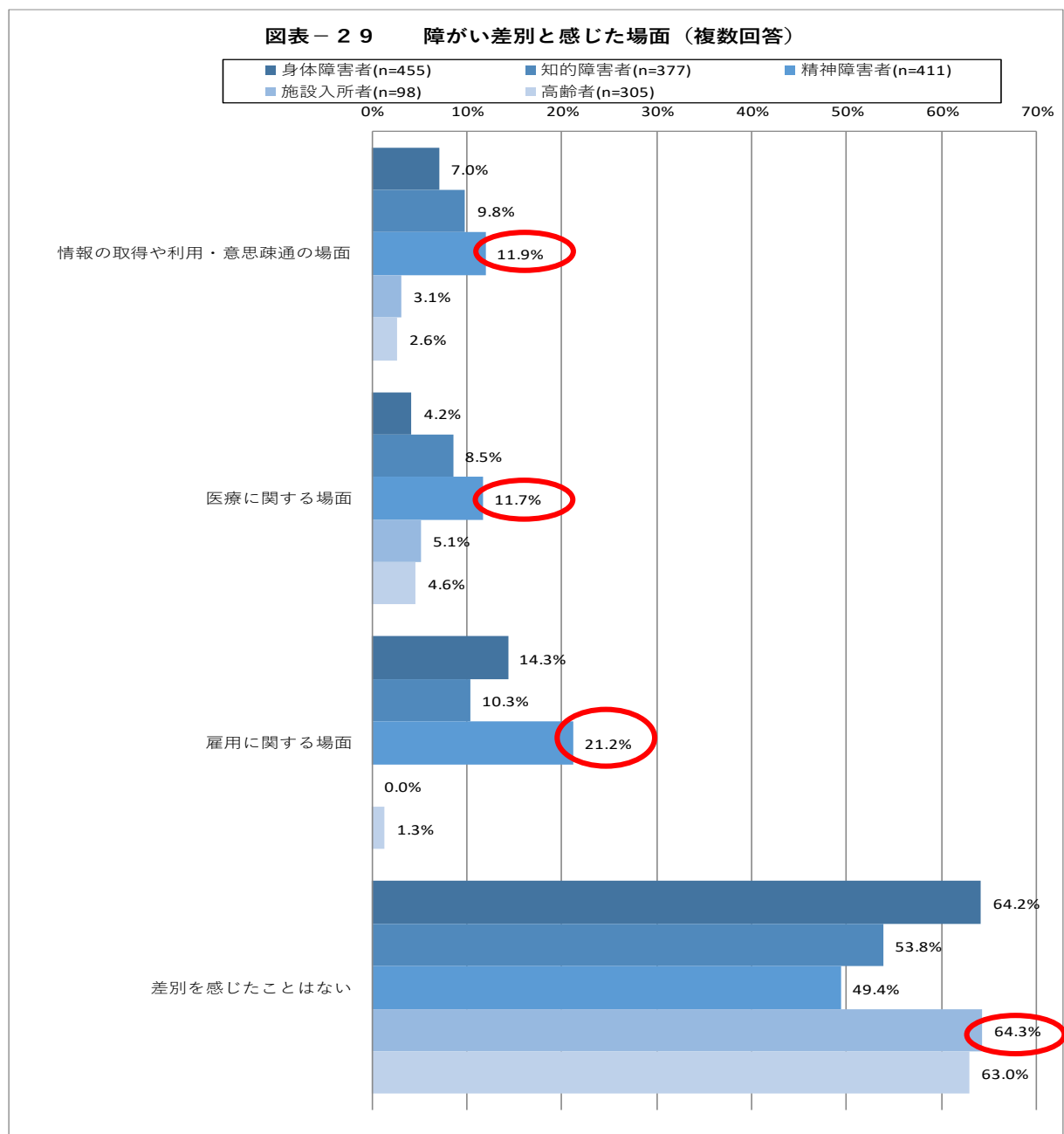
「情報の取得や利用・意思疎通の場面」「買い物・外食の場面」「医療に関する場面」「雇用に関する場面」「差別を感じたことはない」を含めて11項目を複数回答とした。

「情報の取得や利用・意思疎通の場面」では、「精神障害者」が11.9%と最も高い。

「医療に関する場面」では、「精神障害者」が11.7%と最も高い。

「雇用に関する場面」では、「精神障害者」が21.2%と最も高く、次に「身体障害者」が14.3%である。

「差別を感じたことはない」では、「施設入所者」が64.3%と最も高く、次に「身体障害者」が64.2%、「高齢者」が63.0%である。



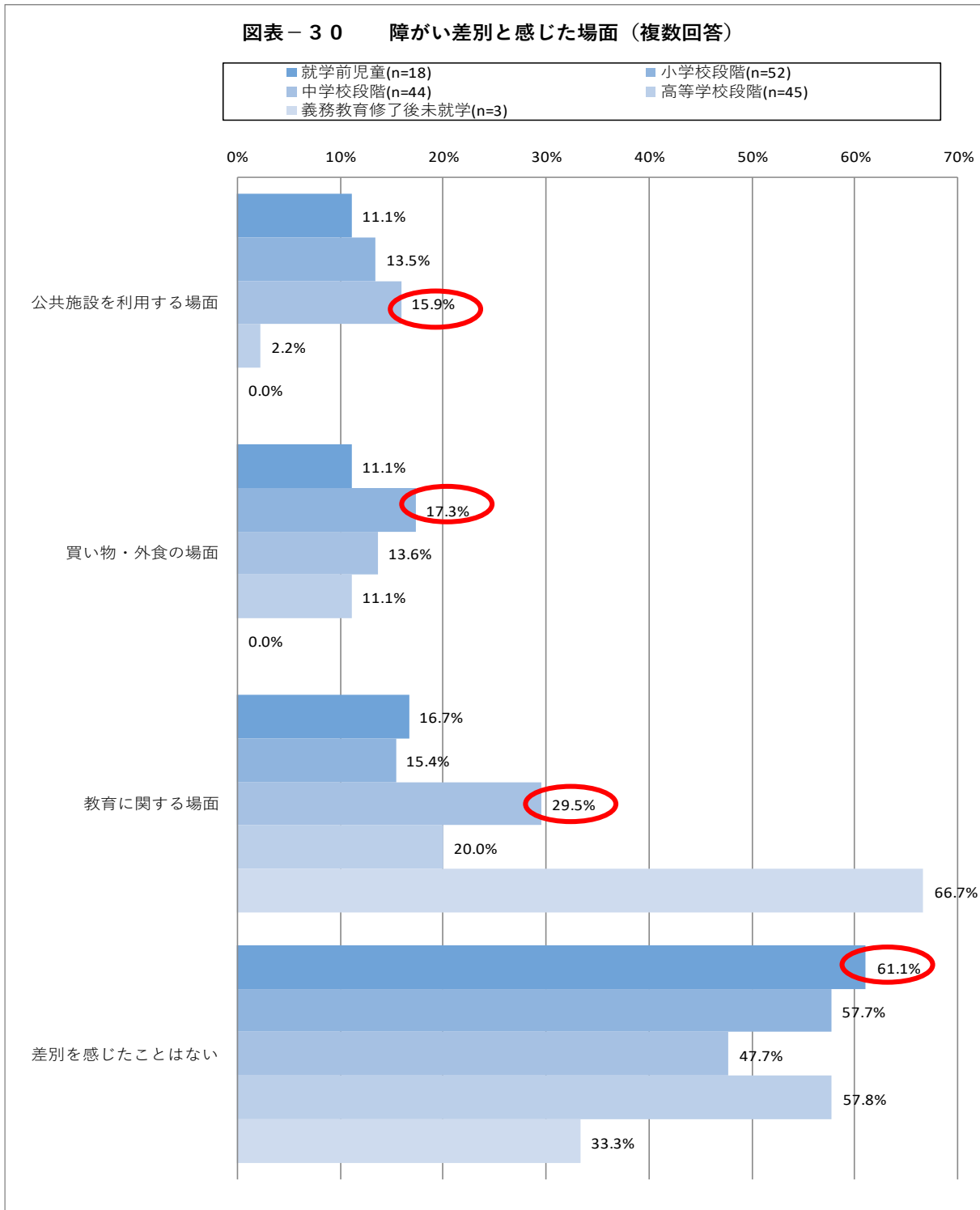
障害児で見ると

「公共施設を利用する場面」では、「中学校段階」が 15.9%と最も高い。

「買い物・外食の場面」では、「小学校段階」が 17.3%と最も高い。

「教育に関する場面」では、「中学校段階」が 29.5%と最も高い。

「差別を感じたことはない」では、「就学前児童」が 61.1%と最も高く、次に「高等学校段階」が 57.8%、「小学校段階」が 57.7%である。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため除いてある。

15. 社会生活を営む上で必要なこと

社会生活を営む上で必要なことを尋ねた。

「社会的な理解の促進」「保険・医療の充実」「雇用促進と就労支援」「経済的な支援」「余暇活動の充実」「生活環境の整備」「障害福祉サービスの充実」を含めて8項目とした。

「社会的な理解の促進」では、「精神障害者」が24.8%と最も高い。

「保険・医療の充実」では、「高齢者」が9.8%と最も高い。

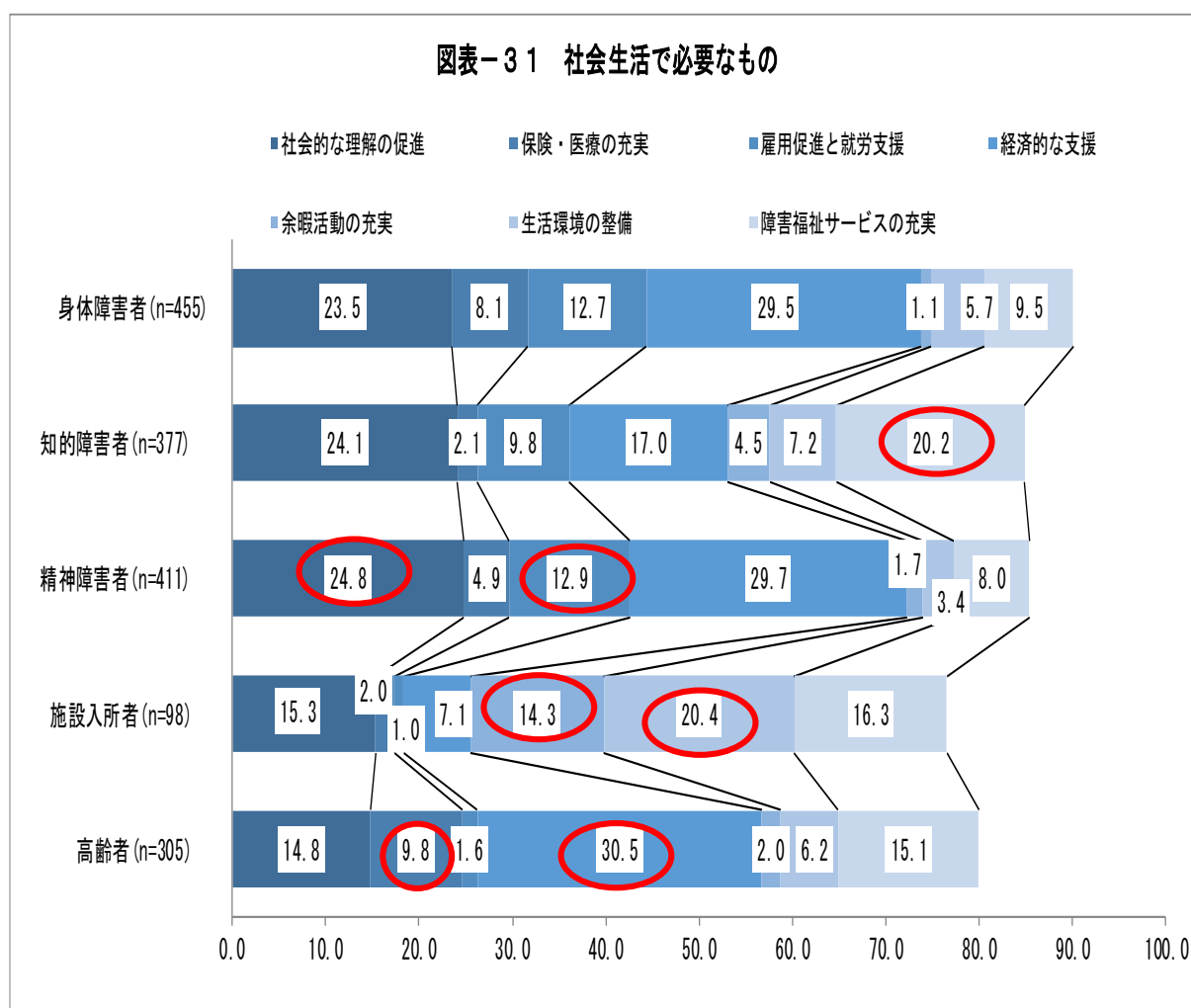
「雇用促進と就労支援」では、「精神障害者」が12.9%と最も高い。

「経済的な支援」では、「高齢者」が30.5%と最も高く、次に「精神障害者」が29.7%、「身体障害者」が29.5%である。

「余暇活動の充実」では、「施設入所者」が14.3%と最も高い。

「生活環境の整備」では、「施設入所者」が20.4%と最も高い。

「障害福祉サービスの充実」では、「知的障害者」が20.2%と最も高い。



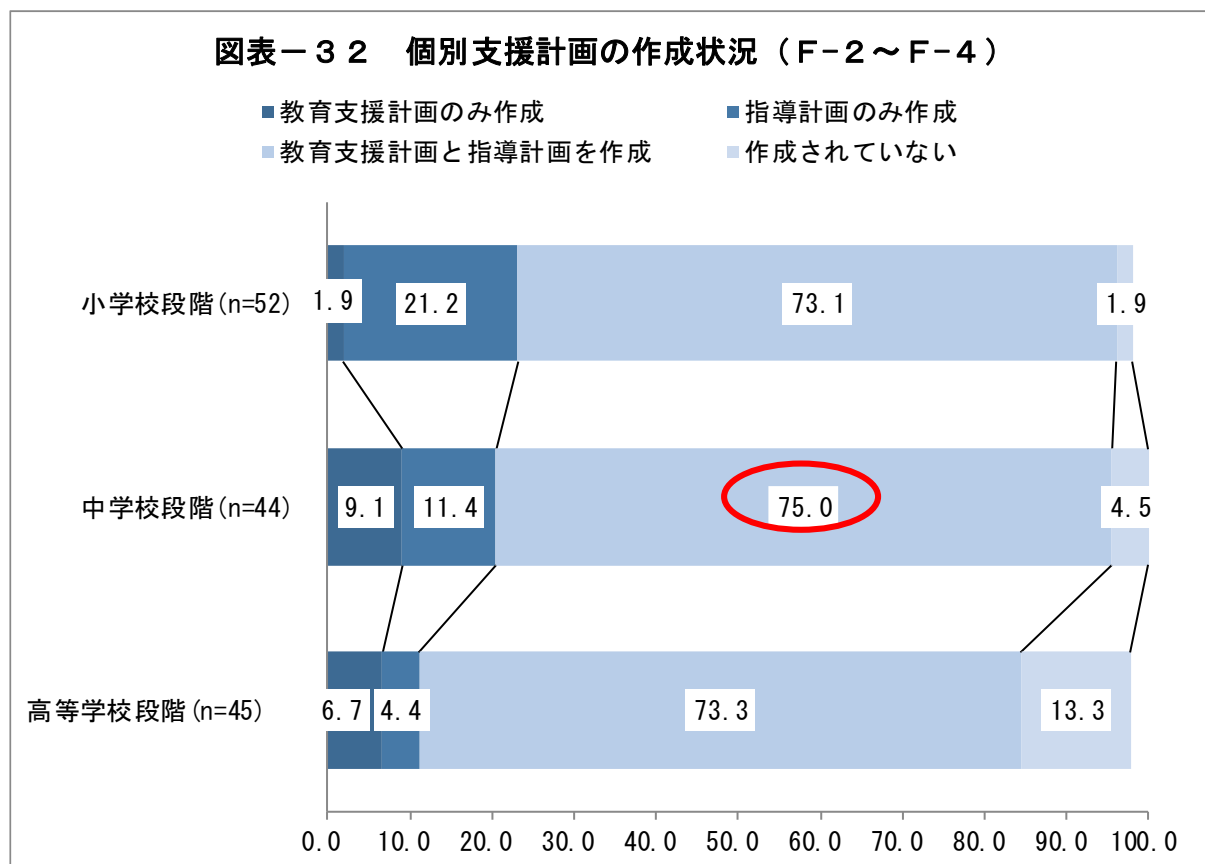
※「その他」と無回答は割合が低いため除いてある。

16. 個別の教育支援計画及び指導計画について

個別支援計画の作成状況について尋ねた。

「個別の教育支援計画」のみが作成されている」「個別の指導計画」のみが作成されている」「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」「作成されていない」の4項目とした。

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」では、「中学校段階」が75.0%と最も高く、次に「高等学校段階」が73.3%、「小学校段階」が73.1%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

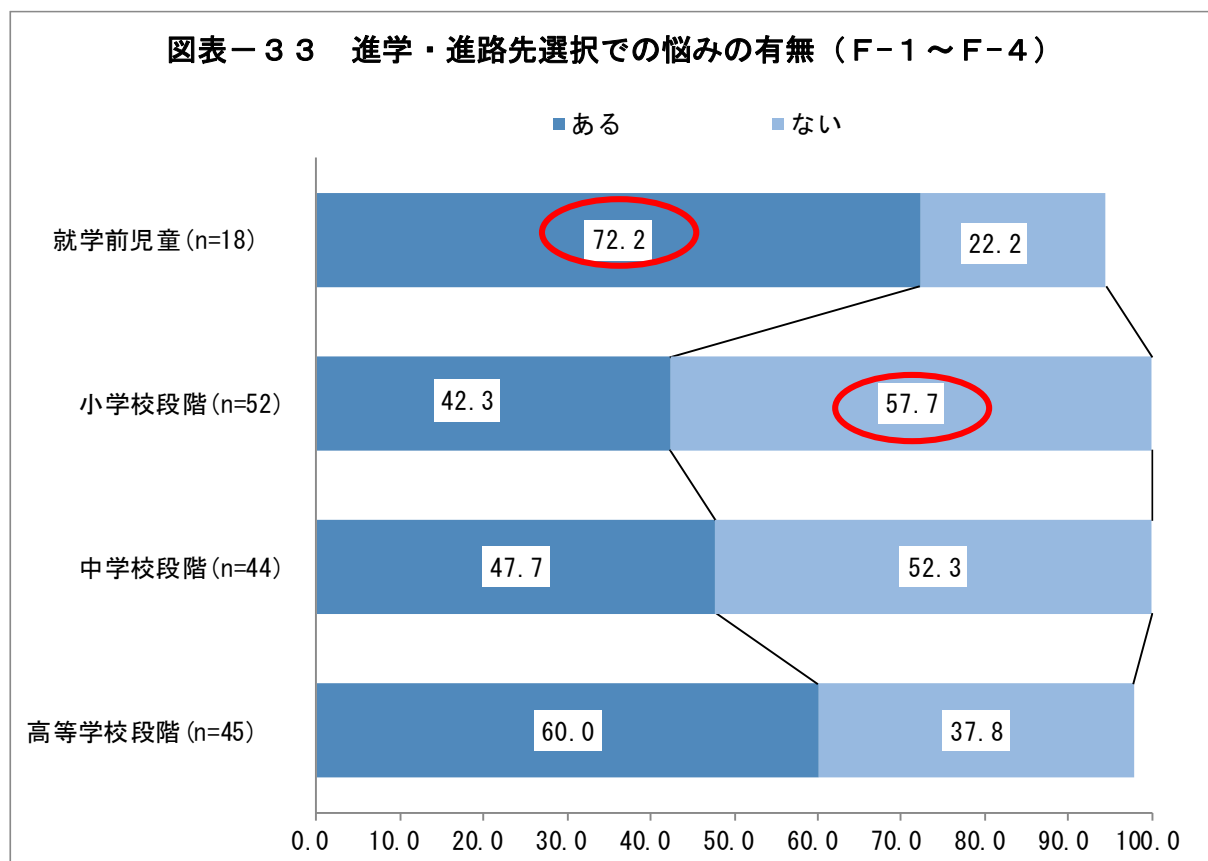
## 17. 進学・進路先について

### ①進学・進路先選択での悩みの有無

「ある」「ない」を尋ねた。

「ある」では、「就学前児童」が72.2%と最も高く、次に「高等学校段階」が60.0%である。

「ない」では、「小学校段階」が57.7%と最も高く、次に「中学校段階」が52.3%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。



## ②進路先選択での悩んでいる理由

進路先を選択することで悩んでいる理由を尋ねた。

「進路が決まっていないから」「自分の適性がわからないから」「希望する進路先についての情報がないから」「勉強についていけるかどうか心配だから」「進路先へ通う手段がないから」を含めて9項目を複数回答とした。

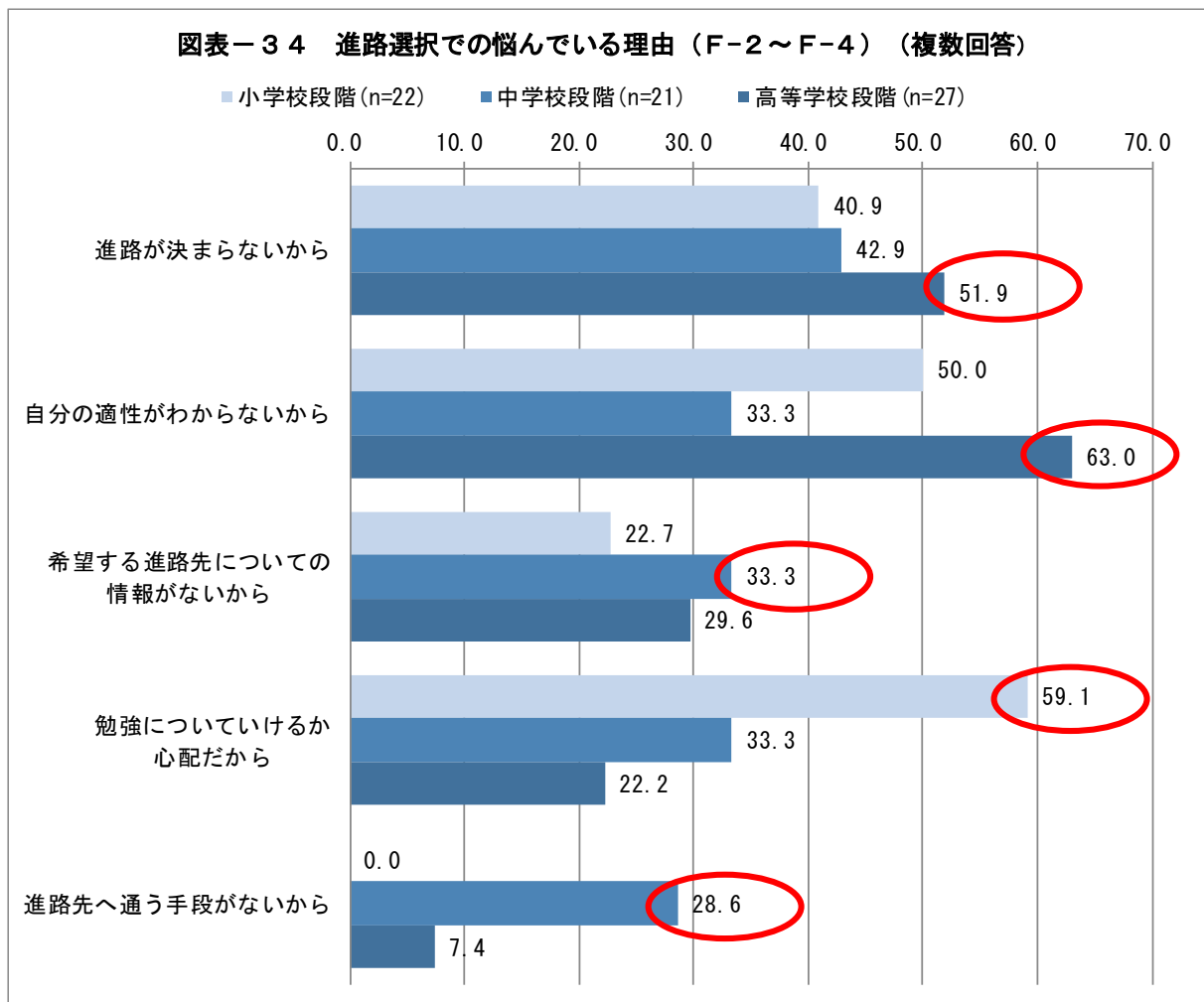
「進路が決まっていないから」では、「高等学校段階」が51.9%と最も高い。

「自分の適性がわからないから」では、「高等学校段階」が63.0%である。

「希望する進路先についての情報がないから」では、「中学校段階」が33.3%である。

「勉強についていけるかどうか心配だから」では、「小学校段階」が59.1%である。

「進路先へ通う手段がないから」では、「中学校段階」が28.6%である。



※上記5項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

## 考 察

障害者の生活実態から、障害者区分別（10種類）の主要なものを考察する。

### ①身体障害者

肢体不自由や内部障害、さらに障害等級は重度障害者の回答が多かった。昼間のサービスや支援は必要としない割合は6割程度あり、その要因としては、就労している者が5割程度いる。さらに生活のために働いているが7割程度と高い。一方、就労したい意向は6割程度あり、仕事内容や勤務体制を望んでいる。相談窓口への相談経験も低い。社会生活で必要なことは、経済的支援が高い。

**就労のための情報提供や相談支援、相談機関の周知が必要と考える。**

### ②知的障害者

障害等級はBの回答が多かった。昼間のサービスは、施設での作業や社会との交流割合は3割程度あり、その要因としては、就労してなく、施設に通所している者が5割程度いる。さらに仕事内容が自分に合っているが6割程度と高い。一方、就労したい意向は6割程度あり、職場の理解や支援環境、職業訓練を望んでいる。社会生活で必要なことは、障害福祉サービスの充実が高い。

**就労のための相談機関に限らず、障害者施設での情報提供や相談支援が必要と考える。**

### ③精神障害者

障害等級は2級の回答が多かった。ひとり暮らしの者も2割程度いる。家族と同居している者は同居人の変更を希望している者も2割程度いる。昼間のサービスは、施設での技術や知識の習得割合は2割程度あり、その要因としては、就労してなく、施設にも通所していない者が5割程度いる。さらに就労している者は、勤務時間が自分に合っているが6割程度と高い。一方、就労したい意向は6割程度あり、仕事内容や勤務体制、職場の理解や支援環境、職業訓練を望んでいる。社会生活で必要なことは、社会的な理解の促進が高い。

**就労のための情報提供や相談支援が必要と考える。**

### ④施設入所者

施設を退所して暮らしたい意向は1割程度あるが、一方で施設では、「安心して生活することができる」理由から、依然として8割程度は、施設で暮らしたい意向がある。また、外出の頻度は、年に数回が多く、まったく外出しない割合も高い。

**施設内外での社会参加の機会を増やすことが必要と考える。**

### ⑤高齢者

ひとり暮らしの高齢者も2割いる。文化やスポーツをしていない（したいと思わない）割合も高く、今後もしたいと思わない割合も高い。

要介護認定を受けていない割合も5割あるが、サービスを利用している割合は6割程度である。また、外出の頻度は、ほぼ毎日と週に2～3回を合わせると6割程度ある。

**社会参加としての外出支援が必要と考える。**

#### ⑥就学前児童

療育手帳の交付を受けている児童が多く、相談窓口の認知や相談経験も7割程度ある。しかし、すこやかファイルの認知は低い。一方、児童発達支援のサービス利用は、8割程度と高い。さらにスポーツをしたいと思う割合も8割程度ある。

また、進学・進路先選択で悩みを抱えている割合は、7割程度と最も高い。

児童発達支援において、すこやかファイルを活用して、進路先選択の支援につなげる必要があると考える。

#### ⑦小学校段階

療育手帳の交付を受けている児童が多く、相談窓口の認知は7割程度、相談経験は9割程度ある。さらにすこやかファイルの認知は高く、放課後等デイサービス利用も高い。また、勉強について心配があり進学・進路先選択で悩みを抱えている割合は、6割程度と高い。

教育支援計画と指導計画の作成を推進していくことが必要と考える。

#### ⑧中学校段階

療育手帳の交付を受けている児童が多く、相談窓口の認知は7割程度、相談経験は9割程度ある。さらにすこやかファイルの認知は高く、放課後等デイサービス利用もしているが、サービスを利用していない割合も4割程度ある。また、進学・進路先選択で悩みを抱えている理由は、進路先の情報が少ないこと、進路が決まらないことが高い。

教育支援計画と指導計画の作成を推進していくこと、就学に関する情報提供を推進していくことが必要と考える。

#### ⑨高等学校段階

療育手帳の交付を受けている児童が多い。芸術・文化活動やスポーツをしている割合も最も高い。相談窓口の認知は8割程度あるが、相談経験は7割程度と低い。さらにすこやかファイルの認知は高いが、サービスを利用していない割合は高い。また、進路が決まらなかったり、自分の適性がわからないために進学・進路先選択で悩みを抱えている割合は、5割以上ある。

教育支援計画と指導計画の作成を推進していくこと、就学や就職に関する情報提供を推進していくことが必要と考える。

#### ⑩義務教育終了後未就学

療育手帳と精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が多い。芸術・文化活動やスポーツをしている割合は最も高い。芸術・文化活動はしているが、スポーツをしていないし、今後もしたいと思う割合は少ない。また相談窓口の認知度は高いが、相談経験はない。(回答者数が3人である。)

相談機関の周知、就学や就職に関する情報提供を推進していくことが必要と考える。